

令和元年度
全道民児協会長・副会長研究協議会
分散会グループ協議概要

分散会協議「民児協運営の課題解決方法、一斉改選への取り組み等について考える」

テーマ1 「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

- (1) 委員のなり手不足等が大きな課題である。一斉改選に向けた適任者確保の方法等
- (2) 民児協における行政との担当区域の調整等
- (3) 適任者を確保するために推薦委員会の前に推薦準備会を設置する取り組み等

テーマ2 「民児協運営等を考える」

- (1) 新任委員の定着化促進等について
- (2) 民児協内の委員相互の意思疎通を図るための工夫について（人間関係づくり）
- (3) 民児協内で児童委員と主任児童委員が連携を図るための工夫について
- (4) 定例会の持ち方（開催）の工夫について（夜間、土日等の開催）
- (5) 災害時に備える民児協内部の体制づくりについて

テーマ3 「関係機関・団体との連携や協働について考える」

- (1) 高齢者サロンや子育てサロンなど民児協が行う活動における地域の連携と協力
- (2) 災害時における民児協住民支援活動と自主防災組織など関係機関との連携・協働についての取り組み（要援護者の把握、台帳作成整備、災害マップ作成など）

テーマ4 「民児協の研修を考える」

- (1) 改選後の新任委員に対する研修等について（参加型・交流型研修への取り組み）
- (2) 委員のスキルを高めるための研修等について
 - ・市町村独自研修の内容等の情報交換
 - ・全民児連研修あり方検討委員会報告書にある「自ら学ぶ」、「仲間と学び合う」、「参加して学ぶ」3種類の研修方法の取り組みについて
 - 「自ら学ぶ」研修（全民児連広報紙・各種調査報告書等）
 - 「仲間と学び合う」研修（定例会での事例検討、民児協視察研修等）
 - 「参加して学ぶ」研修（関係機関・団体や地元民児協、道民児連等の集合研修への参加等）
- (3) (2)の「仲間と学び合う研修」と関連する視察研修のあり方と効果について

テーマ5 「グループで協議、情報交換したい事項」

グループの皆さんで独自にテーマを設定して協議、情報交換していただきます。

【例示】

- ・個人情報保護に係る行政等からの情報提供について
- ・民児協事務局との連絡調整や連携について
- ・民児協組織（役員会、幹事会、委員会、部会他）運営（会則他）について
- ・民児協活動内容（交通安全街頭指導、安全見守りパトロール、調査活動他）について
- ・主任児童委員と児童委員が協働した活動について

※この協議記録概要は、提出いただいた各分散会におけるグループ協議記録用紙の内容を直にまとめたものです。重複する内容については一部省略しています。

公益財団法人
北海道民生委員児童委員連盟

第1分散会（市会長）グループ協議記録概要

司会者 佐々木 正 美 氏〔北海道民生委員児童委員連盟理事〕
運営者 佐 川 徹 氏〔北海道民生委員児童委員連盟副会長〕

第1グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

○一斉改選に向け辞める人はどのくらいいるのか

- ・小樽市：辞める人はいる。退任する人が次の人を探す。
居住年数に関しては地区の判断で選任。
- ・北見市：300人ほど14の民児協。
3名の欠員、成り手がいない。
町内会長に協力を要請（みんなで探す）。
- ・釧路市：458名、21地区の民児協。
21名の地区、退任3名で次の人は決まっている。
身内の人にお願ひする（父から息子へ）。
全体では欠員があり困っている。
3年で3名ずつ入れ替わるようにしている。
できる限り75歳で終わり。やりたくない人がしてもよくない。
- ・滝川市：107名、6地区、欠員9名。
22名の地区だが5名が退任、後任は決まらず、事務局に任せると言っている人もいる（探してはいる）。
- ・江別市：230人、9地区。
南地区39名、3名欠員、13名退任。
5月現在2～5地区が決まった。
定年過ぎたが辞められない。
なり手がいない。
- ・苫小牧市：330名、19地区。
21名の地区で欠員4名。
町内会が動いてくれない。事務局か市役所。
- ・北広島市：120名、全体の欠員は15名ほど。
38名の地区で欠員7名。
- ・函館市：710名、30民児協。欠員5～6名。
- ・公務員退職者は積極的に手伝ってほしい。

○担当区域の調整

- ・行政が関わり割り振っている。世帯数の不公平。
- ・高齢者世帯ばかりで民児協で決めている。
- ・居住地区外の担当もある。
- ・広範囲の担当者は世帯数が少なくても大変。
- ・平均150～200世帯位。
- ・人口減で民児協も縮小、合併。

- ・民生委員の定数を減らす地区もある。
- 推薦準備会を設置する取り組み等
 - ・推薦準備会はないところが多い。
 - ・居住年数が少なくてもやる気が認められることがある。
- その他
 - ・マンションが多い地域。マンションで自治会。
 - ・高齢になり、マンションは賃貸マンションに変化。
 - ・民生委員もいない（自治会がなくなった）。
 - ・民生委員は必要ないという考え。事務局に対応してもらう。
 - ・行政は積極的に関わってほしい。

テーマ2「民児協運営等を考える」

- 会費・運営費
 - ・運営費は民生委員が出す。
 - ・市の補助がある。
- 定例会・総会等
 - ・定例会の出席は良い。信条の朗読、歌など。
 - ・総会はスムーズにしているのか。
 - ・役員はどう選ぶ。選考委員会はあるところとないところがある。
 - ・長く続けるためには人の関わりが財産、「ありがとう」が力になる。
 - ・「人が好きですか」と新人には聞くことがある。
 - ・やりがいではなく…。
 - ・辞めるに辞められない。時々の「ありがとう」に励まされる。
 - ・33年間、民生委員としての「誇り」を持ってやってきた。

第2グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

- ・早い地域は、一年前より話し掛けているが難しい。
- ・退任する方は自分で探して欲しいというところもある。
- ・町内会長に依頼している。探してくれている方もいるが、どうなっているか尋ねても探していないこともある。
- ・地域に推選委員があり、それを活用している。
- ・会長会で、欠員地域に誰か頼める知人、友人がいないか、各地域に持ち帰って聞いてもらい探してもらった。
- ・成功例としては、福祉関係のある会合に出席して（子ども食堂、〇〇サロン）、参加者に民生委員の依頼をし、なってもらった。総じて、欠員を補充するのは難しい問題である。

第3グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

- ・毎回どの地区もいつものことながら困っていると思う。
- 民生委員の後任がない理由。三分の一、退任が多い。
 - ・場所によって車で移動となり、距離感がある。場所によって受け持ち件数の大小

がありすぎる。

- ・人口減、新興住宅が多くなり、夫婦共働き世帯が多い。
- ・町内会長が任命責任のため退任する。
- ・定年・高齢化のため。
- ・思ったより仕事の量が多い。
- ・民生委員は自営業の方が多かったが、閉店などで後任に困る。

○新人を選ぶには

- ・市、社協、町内会、退任者。
- ・行政から退職者の名簿を提出してもらい協力してもらう。
- ・行政も定年を延期し、60～65歳、70歳に。再雇用するので困難。
- ・町内会長退任者に頼らず行政が責任を持って行うべき。
- ・11月末までの決定は難しい。半年～1年かかっても後任を探す。

テーマ2「民児協運営等を考える」

○地区会の仕事（定例会の持ち方）

- ・あせらず、ゆっくりと仕事をしてもらう。
- ・定例会を夜にも開く。昼は場所的に難しい所もある。
- ・若い委員が欠席しても苦言を言わない。
- ・報酬の問題（活動費4万円程度というと1ヶ月4万円ですかと聞かれた）。

第4グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

- ・紋別市：今期退任大量10人（76人中）
- ・歌志内市：22名中10人程
- ・旭川市：33地区に分かれている。西第2地区は16名中3人程。
主任児童委員の場合は、65歳を過ぎてもやってもらう。民生委員も同。
- ・石狩市：75歳以上であっても、新任者がいなければやってもいい。
- ・北見市：75歳を過ぎてもやる。町内会連合会が責任を持って探す。
- ・函館市：5名退任。まだ見つからず。児童委員2名退任（但し補充）
- ・釧路市：21地区11名の会長さんが辞める。2名欠員。
- ・苫小牧市：各町内会に書類が送られ、町内会単位で探す。
- ・全体的に高齢化してきている為、75歳になっても辞めることができない。
- ・準公務員であれば、市の方でも人選に協力してほしい。
- ・市町村の職員のOBさんが退職とともに民生委員をする。
- ・町内会長さんや役員も協力してほしい。
- ・子育てが落ち着いた若いお母さん達に声を掛けても、我々に「いつも出掛けて、忙しそうね」と言われ、受けてくれそうにない。

第5グループ

テーマ5「グループで協議、情報交換したい事項」

○個人情報保護に係る行政等からの情報提供について

- ・函館市：住民台帳の提供あり。自分の担当地区で必要な人の台帳を、自分で書き写す。3回訪問したが怪しい人に見られ（防犯カメラ設置の家）、警察に報告された。その後1回訪問し、後は台帳で確認することに。
- ・旭川市：保護手帳を民生委員が写しを配る。会長には全員の名簿が届く。
- ・釧路市：保護を受けている人の明細書を毎月手渡し。
情報開示。65歳以上の名簿の提供あり。（3年に1回。改選期）
- ・深川市：65歳以上の名簿の提供あり。高齢者台帳の提供あり。生保者の名簿開示あり。
- ・岩見沢市、紋別市、夕張市：65歳以上の名簿の提供あり。
- ・苫小牧市：高齢者65歳以上の名簿を見せてもらい、訪問世帯が調査終わった時点で返還。生活保護名簿のみ預かっている。
- ・紋別市：世帯台帳や名簿を調べるのに料金が発生する場合がある。

○民児協事務局との連絡調整や連携について

- ・苫小牧市、深川市、岩見沢市：社協から市福祉課に移行。
- ・紋別市、夕張市：社協
- ・釧路市、函館市：退職者の方（民児協）
- ・各地域共に連携を密に取ることが大事である。
- ・月1回の役員会、定例会

○活動内容

- ・岩見沢市、釧路市、苫小牧市：学校訪問、児童館、情報交換、ブックスタート、登下校時の見守り。
- ・夕張市：学校訪問、児童館、情報交換、ブックスタート、登下校時の見守り。
バス停に立って見守り。

○親睦旅行

- ・旭川市、函館市：3年に1回（東北メイン）
- ・紋別市：1年に1回
- ・深川市：2年目に道外（2泊）、3年目に地区毎に1泊する。
- ・苫小牧市：会費を集金し、1年目2年目は道外、3年目は道内。

○活動強化週間

- ・釧路市：5月12日～18日の活動強化週間においては、ジャンパーを着用し、スーパー入口等にのぼりを立てティッシュを配布（市が提供）。PR活動は今年で18回目。5月第2土曜日に市民会館で680名が参加された。高校や中学校、吹奏楽部、千人太二（子どもや大人）、寸劇、特に父兄に対しPRになる。

第6グループ

テーマ2「民児協運営等を考える」

○ブラックアウト時の対応

- ・岩見沢市：災害情報を流す（ラジオローカルFM）。民生委員に配布。
- ・安否確認

- ・自発的活動中心
- ・情報がない。
- ・水が止まるというデマが流れた。
- ・ガソリン、電池等を買うための列ができる。
- 民児協の人数について
 - ・苫小牧市：例会、研修等が多いと活動しにくい。
 - ・帯広市：研修、管内・外。人数が多いので施設の見学がしにくい。分散している。
 - ・釧路市：バスは無料で使えるものがある。
 - ・3年に1回、道外への宿泊研修がある。
 - ・人数が多い。区割を変えると校区をまたぐ。
- 活動記録について
 - ・正しく記入しない人がいる。改選時に研修をする。
- 民生委員のなり手について
 - ・まずやめる人が後任を探す。
 - ・会長が回る。
 - ・町内会長に願います。
 - ・市の担当者に願います。

第7グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

- 適任者確保に向けての方法について
 - ・苫小牧市：市長が直接出向いてお願いしてくれる。
 - ・行政と町内会、民生委員とが協力しながら探す。
 - ・年齢遵守の地区が半分、撤廃している地区が半分。

テーマ2「民児協運営等を考える」

- ・仕事の内容を包み隠さず引き継ぐこと。引き継ぎがしっかりできると辞めないで長続きする。
- ・交付金の取り扱いについて話し合った。
- ・委員の定着化を図る意味からの処遇改善が必要との意見あり。
- 定例会の持ち方
 - ・信条唱和を行った方が良い。
 - ・楽しい定例会も必要（歌）〈花咲く郷土〉

第8グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

- ・深川市：推進委員と町内会長で推薦を進めている。なり手が少ない。高齢者が対象。
- ・函館市、苫小牧市、名寄市、石狩市：市から全町内会長へ推薦の要請文書を送付。

- ・ 欠員を生じたエリアのみに推薦への行動を取っている。
- ・ 民児協と町内会が連携して新任者を見つけている。
- ・ 帯広市：退任者が後継者を見つけることとしているが、いない場合は市及び地区協や町内会長と連携を取っている。
- ・ 石狩市：130名中40名退任。次期の目途はついていないが、欠員が解消できない地区もある。
- ・ 全 市：なり手が少ない。現職でこなせる。行動内容を見直す必要がある。
- ・ 苫小牧市：市・民児協・町内会が三位一体として取り組んでいる。（普段から意見交換を継続する）

テーマ2「民児協運営等を考える」

○毎月の定例会のあり方

- ・ 伝達だけの定例会にしないよう努力している。事例研究、情報交換、参加型の会議、ミニ研修。

テーマ5「グループで協議、情報交換したい事項」

○個人情報保護に係る問題

- ・ 訪問しても情報が得にくくなっている。
- ・ 個人情報だからと言って伝えてくれない。
- ・ 市や町内会から情報を得るのが難しい。

第9グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

○協議の中で共通は町会長の推薦

- ・ 75歳以上の高齢者が多いので大変である。
- ・ サロンの利用者の中から情報を得る。
- ・ なり手がなく、町会長がしかたなく民生委員を引き受けている人もいる。
- ・ 一斉改選の2年前から町会長と相談する。
- ・ 主任児童委員が2名一緒に辞める。この確保が難しい。
- ・ 学校からの推薦あり。
- ・ 親子広場を開催して保健推進委員からの推薦。
- ・ 最終的には本人の意欲か。
- ・ 主任児童委員は回転が速い。若い人になるべきという認識があるのでは。65才以上でも良いのでは。
- ・ 主任さんは学校のOBで73歳の方もいる。
- ・ 主任児童委員協議会がある（月に一度）。その他に民児協出席もある。

○その後、それぞれの民協、地域の情報交換をした。

第10グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

- ・ 町会長にお願いしている。民生委員はタッチしない。後任者がいないから辞められないことはない。

- ・住民、市民委員 6 名の中で選任する（市は関係ない）。
- ・町内会の数だけ 1 人いる。市福祉から町内会長にお願い。
- ・途中で替わる時、ひとりひとり歩く（町内会長、民児協会長）。改選の時は町会さん。
- ・町内会長と民児協とで一緒に見つける。
- ・前回の一斉改選の時は 5 名の欠員で始まったが、今は全員埋まっている。背たたき（町会で）すると民協会長が説明に行き、お願いする。新聞で大変と書かれたので一時欠員が 40 名というところもあった。市としては推薦した人の説得に行く。民児協の力が動く。
- ・町会長さんをお願いするけれど見つけるのが大変。主任児童委員さんを見つけてるのが大変。ママ友などから見つけた。
- ・75 歳の定年で辞める。それでその人達の欠員を見つけてる。
- ・新任 72 歳、どうしてもいなかった。3 年伸ばし 75 歳まで可能。
- ・町内会長のところへ市から行く。「名前だけでいいから書いてよ」と無責任なことを言ってなる。「やめて」とは言えない。
- ・定例会に 6 割参加できない人は辞めてもらう。
- ・準備委員会に学校の校長も来る。主任児童委員を学校に誰かいないか尋ねる。

テーマ 2 「民児協運営等を考える」

- ・新任 2 年で体調が悪いので退任したいとのことだったので、町内会長に言って見つけてもらった。
- ・町内会長と合わないので退任した人がいる。町内で何かあったら民児協の会長に相談しなさいと言っている。
- ・新人を育てるには事例を発表してもらおう。どう完結したか話す。タンスの物を盗られたと言うこともあった。
- ・カギの預かりがあり、社協の管理のもと民生委員、町内役員が動く。

○民生委員の親睦

- ・研修会（施設）の後、飲み会。
- ・忘年会、新年会、送別会
- ・一泊研修。3 年に 1 度道外。月 2000 円積み立て。

○民生委員と児童委員との連携について

- ・主任児童委員は赤ちゃんが生まれたら 3 ヶ月以内に「おめでとうございませう」と訪問する。子育ての情報を伝える。市から品物が来る（絵本など）
- ・DV やネグレクトなど学校からの連絡が来たら一緒に訪問する。

○災害時に備える民児協内部の体制づくりについて

- ・要支援者マップ作りをしている。

テーマ 3 「関係機関・団体との連携や協働について考える」

- ・定例会に学校から先生が来る。初めの 5 ～ 10 分位。
- ・夏休み、冬休みに訪問するが問題なしと言われる。
- ・新任の先生が挨拶に来る。（4 月の定例会）
- ・学校の行事に参加する。
- ・問題のある子どものケース会議をする。
- ・中学校の入学式、卒業式に来賓が多く、座るところが無いので行かなかった。

第11グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

- 退任者の人数は各地区2～3割出る予定。
 - ・函館市：退任者8名中3名内定
 - ・帯広市：21名。退任者6名。今まで行政の協力があつた。全市22名が欠員。
 - ・登別市：退任者ゼロの予定。(地区中央)
 - ・岩見沢市：23名のうち、10名退任予定。定年75歳。1年前に意向調査。
 - ・稚内市：昨年6月から退任調査。23名中4名退任予定。
 - ・旭川市：37名中7名退任予定。
- 定年制について
 - ・75歳、77歳が定年。
 - ・2地区定年なし。
 - ・帯広市：84歳退任予定。
 - ・登別市：88歳退任予定。
- 推薦について
 - ・町内会が中心に実施。
 - ・退任者が推薦。
 - ・昨年から退任予定者の情報把握をしている。
 - ・町内会推薦委員会が民生委員の任務を理解していない。
 - ・常に町内会と緊密に情報を交換し、良い委員の推薦をお願いする。
 - ・町内会、長寿会と一緒にならないように人選をする。
- 委員が認知症に！
 - ・家族に状況を報告していただく。
 - ・行政からは個人情報であるという理由で断られた。

第12グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

- ・根室市：退任者が適任者の推薦を。半分は決まる。残りは町内会長等へ依頼。退任者13人のうち7人が決定。13人確保できるか悩んでいる。
- ・稚内市：原点は町内会長の推薦。地域に詳しい人の協力も得ている。欠員は出していない。
- ・芦別市：後任が見つからない。年齢が高くなってもお願いしている。
- ・函館市：27人のうち退任3人。定年7人で定年の人に継続をお願いしている。75歳定年で75歳未満であれば、もう1期できることになっている。改選前で70代が27人中17人が現状。
- ・旭川市：初任は72歳までできる。次期継続するか否かの確認は3月に実施している。年齢的体力的に継続が無理な場合、本人が納得しなければ退任してもらうことが難しい。その意味で定年を設けるのは良いのではないか。女性が半分。もっと多くして良い。訪問時、女性の

方が話やすそう。

- ・根室市：女性が半分。もっと多くして良い。訪問時、女性の方が話やすそう。
- ・帯広市：1期目の人では依頼された時と話が違うために、1期で辞める人がいる。引き継ぎが大切。
- ・函館市：町内会長と民児協会長を兼ねている人が多く、後任が見つかりやすい。

テーマ2「民児協運営等を考える」

- ・道外では定例会議に主任児童委員を含めない市があると聞いたが、グループの6市では主任児童委員を含めている。
- ・稚内市：定例会は平日の午後1時30分から。5地区合同で定例会議を開催している。出席率は平均して70%位。
- ・帯広市：14地区のうち自分の地区では、年に2回は夜の開催、1回は地区内の学校で開催。
- ・芦別市：定例会議は年7回開催。
- ・函館市：10月から2月（冬）は午後1時30分から、5月から9月（夏）は午後6時30分から。出席率90%を超えている。研修会は参加率が低くやめた。
- ・帯広市：自分の地区では管内（十勝）、管外の研修を各1回実施しているが、管外研修の参加が少ないのが悩み。
- ・旭川市：地区の研修会では委員が多く、訪問が限られてしまう。

テーマ3「関係機関・団体との連携や協働について考える」

- ・根室市：要介護者のマップを民児協が作成して、行政と情報共有しているが、そうでないが多い。

第13グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

- ・登別市：地区民6カ所。町内会長、会長、副会長を交えて会議する。町内会長の推薦となると、町内会長と意見が合わない時には推薦されない。定年75歳。なり手がいないので初任が70歳となることもある。自分達の受けた頃と市場が変わってきている。
- ・稚内市：行政から期日を決められるが、町内会長自身の中身を分からず推薦してくることがある。
- ・千歳市：事前に町内会を集めて説明会を地区割りをして行っている。活動、仕事の内容等を説明して理解を求めている。
- ・函館市：30方面、710名の大所帯。若い人が多い。市内は欠員がいるようだが、いくつかの町が集まっているので多い所は1ヶ月に1回、正副会長が集まって会議をする。推薦準備委員会を作っている。欠員している。
- ・石狩市：人口58,000人、130人民生委員。35～36名退任予定。町内会長に対しての啓蒙が必要。レクチャーが必要。
- ・旭川市：33民協。事前の推薦会議をして推薦準備委員会を作っている。78歳未満としている。それ以上は受け付けない。議会を通して決ま

っている。市民委員会（連合町内会）から推薦委員が出ているのでやりやすい。

- ・稚内市：市役所に苦情を言っても、なかなか探さなくて町内会の責任にすることが多くて困る。市の人事が変わって最近は結構積極的になってきた。
- ・石狩市：福祉委員を作りたいと思って、市に話してみたがダメでした。
- ・登別市：町内会長と民生委員とを重複している人もいる。
- ・旭川市：資料24ページに若い人達の社会貢献志向の高まりに光明とあるが、若いと良いというものではないが、そういうことであればもっと広めてほしい。

○まとめ

- ・推薦準備委員会が作られていたり、町内会長を集めて民委員の役割等の啓蒙をしている市がある。今後、どこの市でも市役所自身が実行してくれればいいのだが。市によっては、町内会にお任せの所がある。もっと積極的にやってほしい。せめて初任者の年齢を引き上げてほしい。75歳までになっている退任も3年程伸ばしてほしいという意見もありました。

第15グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

- ・現任の民生児童委員が主体となり、町内会長と調整しつつ新任者の選出を進める。

テーマ3「関係機関・団体との連携や協働について考える」

- ・旭川市：市民会、社協との連携したまちづくり、子育てサロン、高齢者の歌声広場、まちづくり協議会が中心となってまちづくりを推進する。民生児童委員も参加協力している。独居老人の人達の家は個人的に預かっている。
- ・登別市：社会福祉協議会が主導権を発揮して、まちづくりのための分科会を設けている。また、色々な行事を開催している。「きずな推進委員会」を設立。住民座談会を開催している。また、住民にアンケート調査を依頼して、その結果に基づいて住民にどんなサービスを提供できるか検討している。独居老人に対し、老人ホーム、警察と連携して家の鍵を預かっている。
- ・美唄市：「ささえあいを広げる協議会」を社会福祉協議会が主体となり推進し、住民にどんなサービスを提供できるかを検討している。

第16グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

- ・旭川市：推薦委員会とあって、社協事務局（市）7名で市民委員会が町内会長に説明して回る。
- ・帯広市：13人中7名退任ですが、スムーズに承諾書を頂き決定。
- ・美唄市：5月31日に手続きを終えるように言われたが、年齢が高く適任者がいない。どうしても欠員が1人いる。

- ・芦別市：市から推薦状が送られてくる。1町内から1人の場合はまだいいが、3町内会から1人となると難しい。若い人は親の介護をしているのでダメと言われる。
- ・恵庭市：3月に意向調査をした。町内会長に推薦してもらおう。なかなか決まらない。いなければ自分でやるしかない。恵庭には88歳の方が元気である。定年はあるが、元気なら75歳を過ぎても良いのでは。
- ・小樽市：6名退任したが、全部決まった。小樽は退任者が見つかる。今年は町内会も入ってくれた。仕事を持っている人はなかなかできないと言われる。市内での民協同士のつながりがない。
- ・適任者を確保するには町内会長さん
- ・市民委員会で探してもらおう。
- ・誰でも良いというわけにはいかない。
- ・見守り中、地域の人との話し合いの中で退任するにあたって話していたら受けてくれた。良かった。

第17グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

- 今年は一斉改選の年。タイムリーなテーマを選ぶ。なり手、選任方法。
- ・旭川市：行政が選任の準備委員会を作るように。市民委員会というものがあり、そこに民児協会長が加わり選任するようなシステムがある。でもなり手はいない。
- ・美唄市：現役世代にどうしたら民児委員になってもらえるか。定例会を夜にする。3ヶ月に1回とする。会長会は毎月実施。活動記録も3ヶ月に1回。
- ・行政は投げやりの部分が多く、改善すべきだと思う。
- ・再任、退任、退任の場合は次の人を推薦したりするアンケートを実施している。
- ・欠員状態が長期で民児連、行政も苦慮している。

第18グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

- ・小樽市：330人。欠員10人くらい。自分で後任者を探す。
- ・登別市：130人。欠員3～4人。市で推薦委員会。
- ・北見市：304人。欠員3～4人。自分で後任者を探す。
- ・苫小牧市：350人。毎年欠員0を目指しているが現在5～6人欠員。まずは町内会長。
- ・室蘭市：250人。欠員10～15人。前任者が後任を探す。
- ・恵庭市：120人。欠員10人。前任者が後任を探す。
- ・千歳市：210人。欠員4～5人。町内会長が探す。
- ・後任者選出にどこの市も困っている。

テーマ5「グループで協議、情報交換したい事項」

- ・小樽市：個人情報絶対守る。5、6月一斉世帯調査を行っている。
- ・登別市：「きずな」社協との協議は15年。今第3期に入っている（町内会、福祉団体）
- ・室蘭市：主任児童委員が男女1名ずつ。
- ・苫小牧市：民児協で毎年PR週間にふれあいコンサートを行っている。（今年で18回）
- ・各市も個人情報絶対守る（家族にも）。
- ・現民生委員がなくなった場合、全・道他からの弔辞ではなく弔電にしてほしい。
- ・孤独死の場合、民生委員に警察から必ず連絡がくる。（独居の方）
- ・各市・町内会で防犯マップ作りに民生委員が携わっている。
- ・活動費は全市で支給月日が違う。

第19グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

- ・今現在88歳の民生委員がいるとのこと。今度75歳にこだわらず、元気であれば続けても良いのではと思います。
- ・市へ後任者の依頼をしても返答がないので、何とか町内会の安否確認をしながら自分で選任していくしかない。大変寂しいですが頑張る。

第21グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

- ・新任委員の選任が年々難しくなっている。70歳まで仕事を持っている人も多い。
 - ・委員が75歳を定年とすると、1期程度しかできなくなる。
 - ・現時点で80歳超の委員が34名中12名もいる。
 - ・75歳過ぎでも再任しているケースは珍しくない。
 - ・全民児連が設定した委員の条件は時代に即していない。居住年数何年以上、75際定年などは変更すべきである。また、新任委員の適性が実際にその職について分かる部分も大きい。75歳過ぎて、自他共に能力があると認められる場合は80歳以上でも適性ありとしても良いと思う。
 - ・昨今、ネットで民生委員の仕事を調べた新人候補者が「民生委員はとても大変らしいので引き受けられない」と言うケースがある。全民児協のサイトはこうしたマイナスイメージを与えないよう、内容表現をよく考えて修正した方が良い。
 - ・主任児童委員が65歳定年、2期で交代というのも早すぎる。
- 行政（市）が新任委員の選定に積極的に係っているのは苫小牧市で、その姿勢は大いに評価できる。
- 推薦準備委員会というのがよく分からないが、廃止しても良いのではないか。事実上、出せば通る、という流れになっている。
- ・千歳市は推薦委員会（市の有識者で作る）が9万円かかるため、候補者が少ないと開けないというのはいかがなものか。

第22グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

- ・ 互助共済のリスクが増えるため、75歳を遵守しよう。
- ・ 30～40代は生活優先の為、無理にお願いできない。75歳からは仕事をしている人が増えて難しいこともある。(月例会に来られない状況、仕事の関係)
- ・ 地域、農村、サラリーマン。地域のため生活実態で選出しなければならない。
- ・ 役所の人が率先して受けてほしい(退職者)
- ・ 性格に問題のある人には役所の退職者でも頼めない。
- ・ 75歳過ぎてても元気なので、いないので次期お願いする。
- ・ 地域で探せないため、他の町内の民生委員が来て、と苦情が発生している。(町内が分からないため)
- ・ 広域なので運転免許が必要の為。
- ・ 物忘れの人も出てきたので辞めてほしいけれど、本人に言えない。
- ・ その時苦情が出た。言葉で本人に話して辞めてもらった。
- ・ 親が民生委員だったので、息子の為、引き受けたとのこと。
- ・ 活動票は提出する地区、しない地区があると話に出ていました。

第23グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

- ・ 江別市：昨年から取り組んでいた。12～2月に60%決まった。現在90% 248人。昨年は8人の欠員でスタート。
- ・ 苫小牧市：前は欠員0スタート。定数359人。現在進行形。大変だというイメージがある。
- ・ 北見市：定数301人。自分で探す。10人以上は替わる。自分達で見つけなければ町内会に。
- ・ 伊達市：定数88人。75才以上で元気な方はOK。しかし3年後はどうするのか。
- ・ 小樽市：定数347人。自分が辞める時は自分で探す。79才で初めてなられた。
- ・ 滝川市：定数117人。市は動いていない。町内会長さんは大変。なる人がいない。
- ・ 室蘭市：225人。欠員9名。地域的なバランスが悪い。市で広報活動をして町内会長にお願いした。

○どうするか

- ・ 民生委員で地域の欠員がいるところを明らかにして、知り合いがいらないか。
- ・ どなたか知っている人を推薦。事務局を動かしたら。
- ・ 自分で探すのは拷問だ。責任は市にある。
- ・ 自治連に話をして、町内会にお願いする。
- ・ 町内会長さんが大変。大変だけど楽しいこともあるとPR。
- ・ 自分が住んでいる地域以外でもやれるようになった。

- ・町内会長さん自らやっているところもある。
- ・75歳で定年でいいのか。
- ・委嘱状は市長ではどうか。親近感があるのではないか。今は厚生労働大臣である。
- ・道民児連で合祀について本人の意思を確認してはどうか。(本人が亡くなったら)

第24グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

- ・推薦準備会を立ち上げ委員会で探す。退任者が後任を見つけていいけれど、なかなかいない。
- ・昨年より意向調査→退任希望多数出る→市で話を聞く→退任希望が減った
- ・1年前から調査及び自治会長を集めて市が説明する。自治会、民生委員が協力して探す。
- ・定年の後任は自分で探すように。できない場合は地区の委員みんなで探す。誰でもいいという訳ではない。会長、副会長面談し適任者を決める。町内会が高齢化しているので依頼しにくい。
- ・意向調査をするが返事がない場合がある(継続しない?)。市福祉課が調査。市のOBが積極的に探している。
- ・町会長、総務部長が推薦している。
- ・民生委員が町会の役員を兼ねることで情報が入りやすいので、後任を探しやすいのではないかと。探す場合も町内会と一緒に活動できれば。

第25グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

- ・苫小牧市：4人辞め、2人しか決まっていな。探している。高齢化。若い人は働いていて見つけられない。
- ・江別市：4自治会含む。自治会長が選定する。民児会長が決めることはない。22人中5人が辞める希望をしている。
- ・滝川市：3分の1、24人。4人改選。探している。市、教委、町内会、連合会で推薦。市が中心。事務局(福祉課の)。民児協はノータッチ。
- ・小樽市：25人。1人だけ改選。24人再任。探している。町会。見つからない時、委員全員で探している。みんなで探している。
- ・北見市：12名定、2名欠員、病欠1人。自治会(連合)長(76才)自らやると。主任1人欠員、探している。民児協他会長にお願いしては。
- ・室蘭市：31人。3人改選。自分で見つける。いない時は町会長へ頼んで探す。
- ・北広島市：126人。辞める人10人改選。市が再任意向調査。市が中心となっている。3地区福祉委員。力のある人。一斉改選は市が積極的にやる。市の民児協会長が市に対して。今83歳だが、あと3年やりたい。

○認知症気味の委員に対しては？

- ・本人に直接辞意を促す。本人納得した。

○推薦委員会をやっているか。

- ・市から町内会長に通達。町内会長が人選は推薦して報告する。
- ・自治会長が自らやってもよい。
- ・市長が自ら動いてくれる。
- 区割りに問題ある面あり。行政側は安易に応援せよと言うがまずいのでは。欠員をなかなか補充できない場合の手当ての考え方。みんなやり方が異なっている。
- 推薦準備委員会とは？
 - ・法令ではやらなければならない。
- 推薦者が高齢化して見つからない。
 - ・しかし初任者は高齢者は不可。
- あまり忙しい民生委員を見せるとなり手が少ない。委員としてはプライドはあるが。

第26グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

- 委員のなり手不足、適任者確保について
 - ・参加地区共通しているのは、基本的に辞任者が見つかることになっているが適任者がいない。
 - ・原因として
 - ①年金支給開始時期が遅くなって、まだまだ働かなければならないことが影響しているのでは。
 - ②無報酬ではできないとの声あり。
 - ③町内会も役員を見つけるので手いっぱい、民生委員の方に目がいかない。
 - ④地域が高齢化しているので適任者を探すのは大変。
 - ・欠員が出ている地区は担当地区会長が率先して探す努力をする。

テーマ2「民児協運営等を考える」

- ・地域活動を楽しめるように、例会時に思っていることを発言できる様、会長が気配りをしている。
- ・年何回かの親睦を深めることが大切と思う。
- ・例会時間は60～90分内にしている。
- ・例会時間はその地域により、昼と夜に分かれている。委員みんなを集めやすい時間帯に気を使う。

テーマ3「関係機関・団体との連携や協働について考える」

- ・地区民生委員の事業として月第1日曜日に1回開催。
- ・制限を求めず、誰でも「おしゃべり」ができる様、世代を越えてしている地域があります。
- ・室蘭市：市から依頼され65才以上の方の実態調査をし、個人情報等は本人から承諾を得て収集している。マップの作成、要援護者の把握。台帳作成整備も順調にできている。

第28グループ

テーマ5「グループで協議、情報交換したい事項」

- 災害時活動備品整備事業で何を買いましたか？
 - ・小型バッテリー、発電機等を購入するところや、活用しなかったところもある。
- 地震の際の状況
 - ・「断水」等のデマ情報の対応。
 - ・民生委員さんの声かけ、対応について
- 台帳、住民マップ
 - ・大きな公営住宅の民生委員の負担。地区割り。対応等について。

第29グループ

テーマ 記載なし

- ・名寄市：84（民児）、10（主）、欠員あり（団地）
- ・滝川市：100（民児主）常に埋まらない。高齢化。
- ・岩見沢市：228（民児主）欠7
- ・北斗市：120（民児主）欠3
- ・江別市：232（民児主）欠9
- ・苫小牧市：350 欠12名程度
- ・登別市：126 欠6
- 定年の年齢はどうか。
 - ・再任は基本妨げてないが、なり手不足は問題。
- 委嘱を受けるまでの活動
 - ・基本定例会等への参加。なるべくスムーズにしたい。
- 民協の定数について
 - ・見直しや増減も課題
- 団地のなり手不足
 - ・高齢化やそもそも困窮者が多い。
- 書類等の事務を簡素化したい。

第2分散会（町村会長）グループ協議記録概要

司会者 岸 田 勤 氏〔北海道民生委員児童委員連盟理事〕
運営者 鬼 塚 勝 安 氏〔北海道民生委員児童委員連盟副会長〕

第1グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

- ・事務局が動いている地区もある。
- ・会長は1期で辞めないでせめて2期してほしい。
- ・会長になったら当て職が多く、大変です。
- ・前任委員さんが選ぶところもある。

テーマ2「民児協運営等を考える」

- ・1期と退任する人がいるので、せめて2期はしてほしい
- ・定例会は毎月しているところと、年5回位のところもある。
- ・3年に一度道外研修をしている民児協が多い。
- ・道外に行かない時は道内研修をしているところがある。
- ・定例会は13時30分からとか19時からのところもある。

第2グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

- ・各町同様に行政と自治会と退任者が確保に向け働きかける。
- ・担当区域の調整が苦労。エリア外担当もある。定数にそぐわない特例でお願いするしかない。年齢制限をしているとなり手がなくなる。
- ・男女比率、斜里町半々。中川町、男性女性と女性が多くなる。
- ・推薦委員会のあり方。行政、新任者、自治会。

テーマ2「民児協運営等を考える」

○新任委員の定着を

- ・1期、2期で辞める人は少ない。
- ・意思疎通、新年会、歓送迎会4月（事務局）、研修会、忘年会12月「ノミ会」でコミュニケーション。
- ・ブロック研修
- ・改選期に道外視察（積み立て）
- ・民協活動費、町から助成
- ・社会活動、無理強いしない
- ・定例会の持ち方一週間、土日は事務局の関係で少ない。
- ・毎月開催が多い。

テーマ3「関係機関・団体との連携や協働について考える」

- ・災害時における取り組み。
- ・ブラックアウト
- ・地域差があった。停電対応、携帯充電。

- ・マップに沿ってできることを。
- ・行政によるマップで委員のマップも。
- ・斜里町：災害のみならず、介護とか全てのマップを作成して公平を手掛けている。

テーマ4「民児協の研修を考える」

- ・新任委員に対する研修—引き継ぎの他は特になし。
- ・視察研修のあり方。
- ・被災地に行ってみる。
- ・主任児童委員の定例会参加。案件の報告。
- ・活動費の使い方、扱い方、それぞれ。

第3グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

- ・清水町：34名、12名退任。役場OBが中心。会長、事務局が中心。
選考会なし
- ・町内会に選考委員会。3年目会長、検討使用がない。
- ・意向調査を町内会で。農村地帯が難しい。A：B地区、区域を変更して問題なくスムーズに。
- 定例会開催きまっているのか？
- ・年6回 3部会
- ・総6回 月に第2
- ・多忙な5、10月を除き、年間10回（20日）、社協心配事相談。
- ・地区ごとの状況報告。開催年24回、1：30
- ・会長として当て職について不満。
- ・介護保険、推進会議
- 活動費について
- ・現金 3年積み立て自己負担。
- ・参加人数4割。39名中20名半分負担。
- 年齢について
- ・34歳、ほとんど研修不参加。
- ・制限—75歳まで健康なら
- ・税金—無税
- ・若人になってもらっても介護で（女性会員）

第4グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

- ・余市町：民生委員60名、主任児童委員3名、計63名
10数名の改選委員の予定。なり手がいない。定年75歳以上。
男性10名
- ・置戸町：民生委員13名、主任児童委員2名。70歳以上1人。事務局の

人が後継者を探してくれる。6月12日推薦会議あり。

- ・愛別町：人口2,700人、欠員1名。14名、児童委員2名。
- ・芽室町：人口18,000人、民生委員46名、児童委員3名、49名。
欠員3名。3期前から定年の延長によって引き受けてもらえない。80歳越えた82歳、心身共に健康。1期だけ引き続きお願いされる。49名定員。児童委員1名。19名決まっていない。7月推薦会議。行政の責任で一斉改選に苦勞されている。（農家はすぐ決まるけど、町の方が決まらない）
10名一元町職員、校長、児童委員1。弊害が起きている。
- ・弟子屈町：7,200。30名、児童委員2名。計32名。欠員は補充される。主任児童委員1人は出席。病気2名。4～5名辞める予定。定年75歳以上2名。協力的ではない。なり手が少ない。元町職員に協力。
- ・福島町：人口4,000人。27名プラス2。欠員1名再起不能（交通事故）。町内会長に推薦。人選に苦勞していない。選考委員のところで人選に疑問がある場合、適任者がいない場合、町内役員にやっただく。75歳以上2名。役場町職員を入れるとだめ。
- ・小平町：半農半漁3,100名。14名（そのうち児童委員2名）。2名が替わる予定。後継者は決まっている。
- ・栗山町：農業。38名、主任児童委員2名、40名。高齢化、若い人共働き。役場職員は1人もいない。消防職員はいる。改選14～15人替わる。75歳以上の人です。10名位元気、声かければ継続。自治体はうまくいくが、町内が変わると町の方が心配。定年75歳。新任は80歳でも良い。元気だったら。空知の方では75歳定年にすると半分になってしまう。町によってはできる限り役員は辞めてもらう。
- ・余市町：年齢は元気なうちはやっただく。75歳、内定不足。頭と体力が続く限り。認知症にかかっても続ける。推薦会議で認知症になった人は推薦しないように。

・担当地区で戸数が違いすぎ、年齢制限はあるのか？

○定例会

- ・余市町：ブロック夜。定例会2ヶ月に1回。
- ・愛別町：定例会 毎月1回
- ・芽室町：毎月定例会。
- ・弟子屈町：6回、出席率65%
- ・栗山町：研修、定例会毎月1回
- ・福島町：定例会ない→6回
- ・小平町：年3回、出席率悪い。
- ・出席率、情報を共有

第5グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

- ・各町村さんでは3名～8名程の退任者がいるのですが、大体が選考委員会で決めるのですが、本人（退任者）や、会長、事務局が適任者を探すのですが、難しい。また、委員の多くが70歳を過ぎているところもあるのですが、なかなか辞めない。また、逆に割と若い民協さんもいるようです。
- ・様々な活動の中で、民協だけでなく、社協や行政との協力も大切で、活動を活発にするには必要不可欠であるとの話もあった。
- ・防災無線や電話でも常備されている町（浦臼町）と、申し出ても常備してくれない町（豊浦町）もある。ぜひ災害に向け常備してほしい。
- ・最近、家庭訪問が難しくなってきた。生保の家や母子家庭には訪問しにくい。中には「近づくな」という行政もあるそうです。

第6グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

- ・白老町：57名（3名不足）。高齢者のみの世帯のため、地区からは民生委員を引き受けてもらえない。
※退任時に後継者を推薦。行政から推薦をしてもらう。町内会長に依頼。

○推薦の仕方

- ・自治振興会、町内会、退任者が後任を推薦する。現在の欠員については、近くの委員がカバーしているが、委員に負担がかかっている。グループでは改選に向けては3分の1が交替している。現役で仕事をしている方は長く活動してもらえない。

テーマ4「民児協の研修を考える」

- ・研修について、おおむね1泊2日で行われている。
- ・費用については、公費負担と自己負担に分かれているが、自己負担は厳しい。
- ・若い人が多いため、研修の参加率が悪い。

○情報交換

- ・委員の活動費が少ない。道からの補助を増してほしい。

第7グループ

テーマ5「グループで協議、情報交換したい事項」

○災害、自然災害関係をテーマ

- ・鹿部町：400件位あり山に近いので、マップを作っている。地区別の避難場所を作っている。
- ・厚真町：マップ等は作っていたのだが、この度の災害ではそのマップが役に立っていなかった。災害にあった時にはどうすればいいのかが、あまりよく分かっていなかった。安否確認が一人ではできない。行政が止まってしまうので、自治会長等の協力がなければどうに

もならない。明るくならないとどの様になっているのか分からない。民協会長自体が家から出るのが大変でした。

- ・美 瑛 町：安否確認をしてくれと言っても、電気がないとどうにもならない。
 - ・湧 別 町：災害が起きたら何をすればいいのか。避難訓練をしているが、消防、自治会等には話がかかるのだが、民生委員には連絡が来ない。委員さんには1ヶ月、3ヶ月と避難所に過ごされている人がいるので、その人達にアンケートを出していただいた。
 - ・大 樹 町：厚真町さんに行き、視察に行ってきた。見回りも気をつけて行かなければ自分達も危ないので気をつけて回っている。
 - ・秩父別町：竜巻があり、会長さんの家の横を通っていき、川が1年から2年に1度氾濫することがある。
 - ・町の方へ避難訓練に参加させてほしいと言っている。
 - ・災害での高齢者の亡くなる方が多くなってきたので、老人へのケアが大事である（心のケア）。引きこもる人が多くなってきた。
 - ・自分だけがと言う人が多くなった。
 - ・民生委員の担当している地区で16名の方が亡くなっているの、その人のケアも大事である。
 - ・11名の方が辞めると言っている。自治会推薦としているのですが、地震の後、40日間は定例会ができなかった。
- 民生委員用の支援者の名簿をつくっているのか。
- ・社協の方が。
 - ・行政より安否を確認して下さいと言われていたのですが、1日で報告できるところ、半月かかるところもある。
 - ・民生委員の中で最高齢は72歳。80代の方が2人います。元気であれば。
 - ・65～70歳男1方4人。
 - ・若い方にとっても仕事をしている人が多いので、女性の委員が多くなってきている。
 - ・協議会の運営の時間は女性の方が多いので、夜の会は止めてほしいとのこと。
 - ・テーマの方も、もっと違う方々へ考えて下さい。
 - ・情報交換会を地区でやっている。
 - ・作ったマップが災害時には役に立たない。
 - ・災害が起きた時は民生委員自身が第1に考えなければならないのではないかと。

第8グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

- ・洞爺のホテルに勤めているので、いざ災害があった時は勤務の方が大事なので退任するという人が2人いる。どうしたらよいか。
- ・現在名前だけ借りている人もいる。
- ・町内会長に役場より指命されると、やらなければ、と思ってやっているが、役場退職と学校退職はやってくれないのが残念です。
- ・町内会長と民生委員を兼ねている人が非常に多いので、役場で見つけれると

1番良い。会長に探させるのはおかしい。事務局で後任を探すのは良いのでは。

- ・ 退任される委員が探すのが一番良いのでは・・・できない。役場の職員と会長が同席して頼むと良いのでは。
- ・ 少し認知がかかっている人が委員をやっているが、退任させるのが大変でした。(75歳)
- ・ 七飯町：10人欠員です。(73人、内主任3人)

○定例会について

- ・ 洞爺町：2ヵ月に1回
- ・ 月1回～2回やっている。
- ・ 議会を傍聴したり、施設見学等をしている。
- ・ 定例会を1回休むと情報が入ってこないので出席率が良い。
- ・ 時間は午前10～12時、午後1時30分～。
- ・ 忘年会
- ・ 新年会
- ・ 観桜会
- ・ 研修旅行
- ・ 経費はその都度集める。

第9グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

- ・ 北竜町：10名の委員で5名退任。2期6年、4名。60代の方ですが、この度退任。町長、副町長が人選を決めてくれる。慣れて、分かった頃に辞める。
- ・ 委員のなり手が少ない。仕事をしている若手がなり手が少ない。町内会長が受けてくれている。
- ・ 21名の委員で、この度は6名退任。それで選考委員会4回で決定。
- ・ 自治会にお願いして出してもらおう。
- ・ 探すのは大変なので、辞めさせない努力をする。
- ・ 人口が減ってきているので、なかなか決まらない。
- ・ 引っぱってもらってやっている。この度で80歳まで頑張ってもらいました。やった以上は健康であれば5期～6期やってもらいたい

第10グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

- ・ 本別町：退任する場合は後任を決めなければならないが、自治体で選考すべきである。
- ・ 美幌町：退任者が出た場合は自治会で選任してもらおう。
- ・ 長万部町：後任が見つからない場合は、行政で選任してもらおう。
- ・ むかわ町：なり手がいない(少ない)ので、自治会で検討してもらっている。

- ・欠員の問題では、本グループの中ではない。
- 委員確保の課題
 - ・主任児童委員の対応がよくできていない。研修は3年毎でテーマを分けて実施している。定例会では意見が出にくい（委員が多い町では）。
- 新任者を受け入れる方法
 - ・コミュニケーションを取るようになっている。

テーマ2「民児協運営等を考える」

- 人間関係の問題
 - ・定例会は毎月と2ヵ月に1回の町村がある。社協との関わりが多いので、民生委員の活動における役割が多く占められる。
- 主任児童委員の役割一定例会の中で児童の課題を話してもらっている。学校とのつながりが多く、活動内容が決まっている。
- 定例会の開催時間
 - ・沼田町：開催時間は1時30分が多いが、委員の都合が悪く、夜に開催する。（午後6時）
- 災害時の民児協の役割
 - ・むかわ町：対応方法を研修していた。対応の体制をあらかじめ組織化しておくべきで、それが役に立った（当日から炊き出しができた）。他の町では民児協の中では研修に取り組んでいなかった。

テーマ3「関係機関・団体との連携や協働について考える」

- 関係団体とのつながり、係わり方について
 - ・本別町：地域ネットワークは社協で管理しているので情報をもらっている。
 - ・社協から高齢者情報を得ている町が多い。
- 道外研修
 - ・むかわ町・南富良野町：最終年度に行っている。
 - ・参加が偏っていけば実施が難しい。

第11グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

- ・町内会・自治会におろすところが多い。
- ・人口減により、少ない地域の選出が難しい。
- ・民協の会長、副会長の選出はそれなりに順調である。
- ・会長はあて職が多く、平均に7つ以上ある方がいた。覚悟は決めているとのこと。それだけ引き受けてできることに自分に感謝している。
- ・役場のOBの協力をお願いしたい。

テーマ2「民児協運営等を考える」

- 定例会について
 - ・年6回以上は開催されている。
 - ・開催日は固定化され、定着している。
- 事務局は福祉担当係でやっている。
- 活動費

- ・活動費の一部として報酬から会費を徴し、運営しているところが多い。
- ・町、職員の金銭処理の負担軽減を図るため、会費徴収なしのところあり。
(必要に応じて)

○30. 9. 6 東部地震

- ・震源地から近い、遠いで被害には差があった。
- ・酪農地帯は停電による搾乳作業に支障が。
- ・安否確認を実施した。直接援護作業従事はなかった。

第12グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

- ・音更町：3分の1の交代。町内会長と民生委員が主体となって探す
- ・黒松内町：行政からの指示待ち。18名の委員のなり手がいない。農業中心なので夏期は定例会にも支障がある。
- ・幌延町：12名。主任児童委員欠員状態。なり手がいない。定例会、全員揃うことはない。
- ・和寒町：16名。7人の退任意思がある。事務局が後任の選考にあたっているが、まだ決まっていない。農家の方が多いので、月1回の定例会の出席が不可能と言われている。
- ・今金町：民児協自主運営を行っている。メリットもあるがデメリットが多い。委員が1期で退くのが多いが、委員が各自で後任を探す。頼み込んだ時が「1期でも良いので」と頼んでいるので。
- ・新冠町：選考委員会が終了した。自治会長からの推薦で上がってくる。主任児童委員は教育委員会からの推薦。
- ・浦幌町：若い委員、50～60歳が多いので、退任の時もスムーズにできるようにしている。次の後任がまたすんなり引き受けてもらえるように場を作っている。
- ・黒松内町：役場退職者委員が誰もいない。

テーマ5「グループで協議、情報交換したい事項」

○見守りについて

- ・浦幌町：高齢者が多く、個人情報を取り組みには苦慮したが、町、社協、自治会、民生委員等、連携で独居の見守りに役立てている。
阪神大震災の時の経験から、自分の地区だけでも気にかけて、地域の方に頼んで、隣や近所を見てもらっている。
- ・黒松内町：共済組合の獣医さんも見守りネットワークとしてもらっている。
ヤクルトさん、弁当配食、新聞配達さんも加わっている。

○報酬について

- ・和寒町・音更町：調整費85,000円。日当はなし。出張は規定に基づく。

○定年制について

- ・音更町：自分も含め、委員がすでに高齢なので、75歳定年で辞めた方がいい。80歳になって車での見守りが困難になっていると思う。
原則を破ると若い人が入りづらい。

- ・浦幌町：大半が同じ年代で若い方なので、何事もスムーズにできている。
- 当て職について
 - ・和寒町：民生委員は何かと当て職が多い。
 - ・浦幌町：小さな町なので、同じメンバーで多種の委員会に入っている。

第13グループ

テーマ5「グループで協議、情報交換したい事項」

- 活動費
 - ・活動費に濃淡がありすぎる。(グループ内情報)
 - ・定例会に出る度にお金が出る。
 - ・会長職には年30万?
 - ・低いところは上げるようにと。
 - ・活動費をもっと上げられないか。
 - ・支部の要望書を自治体に上げることはできないか。
 - ・なり手のいない中、やっている現実。
 - ・地道な仕事だから、楽しみながらやれるといい。
 - ・勤めている人、自営の人は出てこない(なっても)。ある程度の額が出れば仕事を休んでも来るだろう。
 - ・よそに出ていくのが大変で二の足を踏む女性もいる。
 - ・スキルアップと言っても2泊3日、65歳以下の中堅委員の派遣は年々難しくなっている。
- 定例会出席について
 - ・7割。(自営、農家の人は夏場は来ない)
 - ・仕事を持っている人は来ない。
 - ・今は、役場を退職した人がなってくれない。すぐに年金が出ないから天下りか選挙に出てしまう。
- なり手は誰でも良くない。
 - ・動きやすい体制づくり。(情報の縛りが強すぎないか)
 - ・是非やってみたい魅力が民生委員にあるか。
 - ・人口減ではあるが、定員は同じで仕事は増える。
 - ・独居老人、ひきこもりは100万人いるという。
 - ・つい先日、買い物にも行きたくない二人暮らしを訪ねてみたら、栄養失調で入院させた。
- アイデア
 - ・役所はくれなくても連合町内会兼職しているので、消防に言えば市街の入居者名簿要支援者の一覧表をもらっている。助かる。
 - ・民生委員(改選期)顔入りで、担当民生委員をA3で作って改選まで貼ってもらっている。

第14グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

○一斉改選の状況確認

- ・黒松内町：委員数18名（うち主児2名）。ほぼ全員更新（保留2名）
選出方法－事務局、町長による訪問。
- ・東神楽町：委員数24名（うち主児2名）。半数退任意向。
選出方法－事務局で
- ・下川町：委員数19名（うち主児2名）。今回は全員更新の予定（3年前半数更新済）。選出方法－後任を見つけてもらう。
- ・えりも町：委員数18名（うち主児2名）。欠員1名プラス1名＝2名更新。
選出方法－地区の中で推薦。後任を見つけてもらう。
- ・滝上町：委員数21名（うち主児2名）。12名退任意向有。最終4名更新。
選出方法－事務局で訪問。
- ・厚岸町：委員数35名（うち主児2名）。22名退任意向有。（欠員5名）
選出方法－自治会に依頼するなど対応。6月に2回目の推薦委員会を実施する。
- ・安平町：委員数34名（うち主児4名）。10名退任意向有。最終10名探す。選出方法－事務局
- ・道外研修－厚岸町
- ・定例会－約半数、毎月1回。約半数、2ヶ月に1回。
- ・災害時の民生委員の役割－特に対応等は決めていない。まずは自分の身を守るのが先決であるが、その後の対応策までは決めていない。果たして民委員さんにどれくらい対応してもらったらよいか分からない。（無報酬のボランティアの立場）。各自に任せている状況。
- ・要支援者台帳の整備状況

第15グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

- ・町内会に候補者推薦の依頼をして、その候補者を推薦会にかけて、候補者に事務局で依頼をする。基本スムーズに行くが、いかない場合は町内会長に相談をする。
- ・基本は留任で、留任のお願いをして、辞めたいと言う人については、会長副会長に後任を探してもらう。
- ・その地区に住んでいる人に一本釣りをお願いする。

○欠員について

- ・どの町村も現在は欠員なし。

テーマ2「民児協運営等を考える」

○定例会について

- ・町村によってバラバラで、毎月、年6回、年4回がある。

- ・多すぎて負担になり、なり手不足につながっている。
- 定例会テーマについて
 - ・毎回内容を考えなくてはならなくて大変。
 - ・席をくじ引きして、その席で話し合いをしてもらい、課題を見つけ、その次の定例会でその課題について、解決のために話し合う。
- 活動費について
 - ・町村によってバラバラ。
 - ・6万円くらい。
 - ・会長 120,000 円、副会長 96,000 円、委員 86,000 円で他と比べ 多い。町議会で活動の負担が大きい割に少ないと言われ、少し上げた。
- 主任児童委員について
 - ・以前は学校に行ったり、問題のある家庭への訪問をやっていたが、現在は他の委員と変わらず、特別な活動はない。
 - ・他の町村も特別な活動はない。
- 研修旅行について
 - ・道内旅行のみ
 - ・毎年旅行で3年に1回
 - ・3年に1回道内旅行
 - ・様々なパターンがあり、泊る日数も様々。
- 定例会の進行について
 - ・会長が司会進行を行い、事務局が説明のパターンが多い。
- 会計について
 - ・事務局で通帳等管理がほとんどだが、委員の中に会計という役職があり、その委員が全て管理しているというところもあった。
- 年齢制限について
 - ・要綱等で得に決まっている訳ではないのに、70歳で退任という流れができており、みんな辞めてしまう。そのため、なり手不足となっている。他町村では70代が中心。
- 推薦会のメンバーについて
 - ・法令の改正で議会がなくなったが、どうしているか一変えていないところがほとんど。
 - ・会長が入っているが、それだと辞めれないのでは。

第17グループ

テーマ2「民児協運営等を考える」

- 定例会の持ち方（現状）
 - ・斜 里 町：7月、8月、9月。夜に勉強会を開催。
 - ・鹿 部 町：月1回。19：00から。その後飲み会。沖縄旅行等も。
 - ・岩 内 町：16：00から。月1回。その後飲み会
 - ・幕 別 町：第2水曜日13：30から。7月焼肉。
 - ・中富良野町：毎月1回。13：30～14：30

・平 取 町：2ヶ月に1回。年間5回。13：30～15：30

○夜開催については

- ・賛成一働いている人が参加できる。
- ・反対一年金暮らしの人が多いため昼間。
農家の方が昼間を希望している。
定例会の後の飲み会を希望している声が多い。

○ブラックアウト時の活動

- ・鹿 部 町：民協で見守り。民協会計で備品購入。
- ・幕 別 町：夜中に見回り。民生委員で炊き出し。
- ・中富良野町：福祉課で安否確認。民生委員からの聞き取り（安否確認）
- ・平 取 町：民協担当で聞き取り。
- ・岩 内 町：福祉課で発電機など貸出。民生委員からの聞き取り。
- ・斜 里 町：発電機が町にあるので、町が中心となり情報発信した。

第18グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

- ・古 平 町：17人。2人辞める。うち1人OK、1人決まらない。若い人減り、地区にいない。会長留任。
- ・足 寄 町：33人。3月、皆さん留任。調査した。3人これから。
- ・遠 軽 町：76人。4支部。46名、事務局、自治会長へ推薦依頼。21人辞める。6人決まらない。自治会から。委員の高齢化。
- ・長 万 部 町：32人。3月以降、6人辞める。いないところある。若い人。1人見つからない。
- ・南富良野町：11人。全員留任。会長辞めるとみんな辞める。

第3分散会（市副会長）グループ協議記録概要

司会者 南 博 雅 氏〔北海道民生委員児童委員連盟理事〕
運営者 梅 田 絹 子 氏〔北海道民生委員児童委員連盟副会長〕

第1グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

- ・名 寄 市：町内会長さんより依頼されて、民生委員として活動することになった。定例会の中から評議委員などを依頼された。自分は退職後だった為、スムーズに活動できた（市から町内会長へ）。会食会→学校給食から取り寄せる。お弁当を取ったりする（実費1000円～）。
 - ・滝 川 市：町内会長から話があり、市からの依頼があった。（仕事を持っている人は民生委員としては難しい）民生委員週間に集中して行っている。
 - ・旭 川 市：その都度の活動、敬老会の準備。独居老人とのふれあい、食事、軽いスポーツ。人員については市委員会、社協、推薦委員会、事務局で話し合いをしてから、町内会長に依頼してから選考委員に提出する。
 - ・帯 広 市：24名→19名で、欠員5名あり。見守りは会員が分担して見守っている。困りごとセキュリティーマンションは大変。ふれあい会（年4回）。民生委員、社協、町内の方と人数的には50名の方が来る。その時に交通安全などの講習会も行う。
改選の件では、今の時点ではまだ辞める方が分からない。
 - ・函 館 市：24名中5名が退任する。各町内会で推薦してくれる。70代の方が新任で選ばれたが、1期で終わってしまった。
食事会。65歳以上の独居老人対象で年3回、民生委員と町内の役員で、食事と汁物、果物を用意。内容はゲームや歌で楽しんでいる。
お名前ビンゴ→手作りのビンゴゲームが喜ぶ。
 - ・砂 川 市：民生委員54名、主任児童委員3名。辞める時は後任を見つけるのが前例だったが、今期は不可能である為、市の方で探してもらおう。辞める為のエネルギーが大きい（21年目）。現在11名のうち、3名しか決まっていない。
 - ・恵 庭 市：町内会長に依頼して事務局へ提出。
- 定例会について
- ・滝 川 市：定例会は毎月行わない。
 - ・定例会は平均2ヶ月に1回行っている。
 - ・その他の地区は月1回。
 - ・その地区により日時が決まっている（8日とか9日とか）。
 - ・定例会の出席率はとても良い。
- 民生委員をやっている良かったこと
- ・いろいろな方と知り合えた。
 - ・小さい子からお年寄りまでの顔見知りが多く、そのことが喜びとなる。
 - ・民生委員を行っていても良いことは何もなかったとの声もありました。

第2グループ

テーマ3「関係機関・団体との連携や協働について考える」

- ・帯広市：社協サロン30名集まる。上は90代から100歳の方も参加。認知症カフェに自然体で連れて行く。
 - ・名寄市：サロン。老人クラブ稲穂クラブの名で誰でも参加できる。6～9月ラジオ体操。50～60参加。終了後参加賞がもらえる。
 - ・岩見沢市：地域町内会から6名くらい支援。百歳体操15～20名参加。
 - ・滝川市：サロン。百歳体操。
 - ・旭川市：サロン。市の主催。民児協が手伝いに入る。
 - ・函館市：町会によって活動。冬は除雪。民生お手伝い程度。社協のイベントの参加。
- 全体では見守りをしている。
- サロンについて
- ・活発にしているところと、そこそこにしているところがあるようです。

第3グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

- ・名寄市：町内会、行政との調整。町内会に担い手。
- ・帯広市：長崎一町内会、行政。
- ・砂川市：町内会→行政－57名
- ・稚内市：町内、市4区、6地区。中央町内一町内と民生委員の役員を兼ねる。町内会長との理解を深めて選考する。
- ・岩見沢市：町内会選考
- ・函館市：700名、30地区。補充。高齢者交流。民生委員の立場が不明確である。町民と行政の仲介役である。(町内会)校下におけるPTAとの関係。主任児童委員の選考。児童館。
- ・砂川市：主任児童委員は学校の先生だった。
- ・稚内市：主任児童委員。学校から主任児童委員へ情報。虐待プロジェクト
- ・旭川市：主任児童委員－若い 町内会長－選考基準－そのまま 民生委員－選考候補者の集合 選考委員会が形だけになりがちだ。
- ・稚内市：地域ごとに。若い世帯、漁師は減少。高齢世帯200世帯。
- ・帯広市：長期任者が多い。20件以上。
- ・旭川市：世帯数でなく町内会ごとに選任した。
- ・函館市：30方面－第6方面
- ・司会：再任者、長期による選考。担当区が分かりやすく。
- ・砂川市：75歳越えた者。原則。
- ・稚内市：市内4つ－75歳以上辞めたい。留任したが他委員。
- ・名寄市：町内会から民生委員不在のため行政はどうなるか。
- ・司会：町内会長が民生委員の役割を承知していない場合もある。担い手の育成。

- ・稚内市：地区ごと活動する。
- ・司会：男性、女性の委員。だんだん女性が多い。
- ・稚内市：担い手。若い者が分からない。町内会が担い手になる。
- ・司会：問題点

○まとめ

- ・町内会の選考候補－民生委員を決めよ。
- ・7市の事情を説明した。地域事情。町内会長による。
- ・女性、男性の特性を理解。
- ・主任児童委員の担い手。

第4グループ

テーマ3「関係機関・団体との連携や協働について考える」

○災害時における民児協が行う活動

- ・昨年のブラックアウト
- ・函館市：独居の老人の把握～町会の人には分かっていた。民生委員まで待っていない
- ・旭川市：行政の対応に問題あり。
- ・稚内市：65歳以上の独居、生保世帯のファイルあり。身障者ペースメーカーをつかんでいる。
- ・岩見沢市：高齢者の実態調査。

※自分の身を守った上で活動する。

○稚内市：高齢者サロン月1回弁当300円（社協、支援センター）。民生委員が運営、役所より補助金（会場費、弁当代）。5、6、7月脳トレ、終活ノート。

○各地の様々な状況が意見交換できました。

○このグループでは生保伝票を届けているのは旭川市、砂川市のみ。他市は生保受給者に面識もない。

○研修旅行で交流

○新任研修の内容について

第5グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

- ・14の民児協。21名急遽退任（病気の為）－今年6名の退任
- ・欠員となる地区を会長と副会長で、町会長等に推薦依頼しているがなかなか見つからない。
- ・町内会の17名にあたっているが、民生委員になるとボイコットされる。
- ・町内会のほとんど同じ宗教の人が多いため、一名なり手がない。
- ・町内会長と奥さんに依頼している最中！（質問、定年なくなったのでは？）
- ・町会長の推薦で民生委員になるのでは？町会長はあてにならない。
- ・江丹別過疎化－人口300人程。定員10（8－2）

- ・担当は10戸のみ。高齢化。減るのみで増える事はない。全員継続。定数20名欠1名
 - ・民生委員はお互い様の事で順番だよと言われ、することになった。
 - ・一期だけと思ったのですが3期もすることになった。福祉の事で分からないことが沢山あったけれど、とても勉強になった。
 - ・大変な事ばかりのデメリットばかりを聞いてなり手が居ないと思うが、いかに自分の為になるか沢山のメリットがあること、喜びや達成感を記して誘ってみてはいいのでは。
 - ・実情、小学校に校区で5つに分かれていく。
 - ・25名当時、新興住宅地であったが、81歳だが年上ばかりで後継者がいない。
 - ・新任者87歳がいる！町会長の推薦で気力と体力の続く限りしなければならぬ。
 - ・辞退も競争、最初民生委員に承諾していたが、奥さんの一言で。
 - ・5地区あり、退任者の後継者は決まっている。
 - ・断ってきた。
 - ・まだ年寄がするものだと思っている人がいる。困ったものだ。
 - ・独居高齢者67名、375世帯担当。気になるのみ訪問。
- ※中堅民生委員研修はとても勉強になったし、とても良かった。(退任する方で思い出に残った事)
- ・一期目は何がわからないかわからない。二期目は何がわからないかわかる。三期目によろやく民生委員の事がわかる。

第6グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

1. テーマ決め
2. 改選を目の前にして、欠員はどういう状況か又、後任確保は出来ているか一本にしぼって考える。
3. (1)全体的に欠員 2名～7名が不足である。
(2)なっほしい人材が居ても受けて頂けない。
(3)当地の市は全く介入しない市あり。又、市が文章に要請する地域もある。
4. 人選の件
(1) 補充が町内会長に打診して情報を頂く。しかし、地域によっては個人情報があるから対応できない例もあり。
(2) 退任者が後任を探してくる。
(3) 地域の退職された方への訪問し
5. 人員確保出来ない時は市の審議委に上申する。
6. 定年は75歳が好ましく、人材確保には多方面の結束が必要。

○結論として

民児協の補充確保は諸事情を鑑み、大変困難と位置づけ

当該市の強力なリーダーシップを頂き、町内会長が地域の安心安全、福祉向上を図る為、推薦準備委員会を設け、市、市民委、町内会長、町内役員、民児協が不安をなくすよう方向づけされたいと第6分科会は結論とする。

第7グループ

テーマ3「関係機関・団体との連携や協働について考える」

- (1) 高齢者サロンや子育てサロンなど民児協が行う活動における地域の連携と協力
- ・帯広市：16年前より、民生委員が主になって運営している（高齢者、子育て中）。時々、講師の方を呼ぶ。（イベント、カラオケ、ひな祭り）
 - ・旭川市：イベント（月）を考えて体操（2ヶ所、第3、4月曜日）。お正月、ゲーム、パーク、参加賞あり～社協。（主に高齢者、子育て中の方々）
 - ・うまくボランティアさんを入れ次の担い手になれる様、参加する方がほとんど女性。男性が少ない。
 - ・民生委員が主として高齢者向け体操
 - ・岩見沢市：親子広場（月、火、水、木）。民生委員当番（保健推進委員）（月2回）を決め参加。各方面（児童館の中に）12カ所。
 - ・美唄市：社協の仕事を手伝いする。主任、放課後児童。
 - ・名寄市：民生委員他、様々な人をまき込んで
 - ・歌志内市：デイサービスの方との交流があり、週1回（水）マーじゃん、刺繍。
 - ・函館市：在宅福祉委員会。在宅独居、夫婦世帯一見守り（町内会立ち上げ）
- (2) 災害時における民協住民支援活動と自主防災組織など関係機関との連携・協働についての取り組み
- ・朝7時頃～一人暮らしの方に個別に廻る。
 - ・地域包括センターの方達が廻った。
 - ・民生委員だけではなく街中の方も声かけをした。
 - ・民生委員は安否確認をした。
 - ・災害者（要支援）マップを作った。
 - ・市の方より廻って下さいと言わなかった。自分でお年寄りのところを回る。
 - ・市の情報発信がなかった。
 - ・民生委員に要支援者の名簿がきていない。分からない。
 - ・本人希望にて居所、電話番号を持っている。
 - ・世帯

第8グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

- ・民生委員歴、短い期間～24年の経験年数
- ・岩見沢市：欠員なし。北村、町内会長、区長さんに選んでもらう。保健推進委員から民生へ各地域に1名配置。10名（民生委員）
- ・函館市：22名。介護職終わって声かけられて。欠員なし。選考委員会
- ・申請書は内諾を得てから承諾書。
- ・自治会長が民生委員の事をよく知らない。
- ・市の民生委員推薦会で決定する。
- ・3年ではなく6年位でやめる人多い。
- ・1年位前から（改選期）人選を行う（町内会長等をお願いして）。高齢化。自分

の受け持ち地域から出ないので、他の地域からお願いした。

- ・民生委員→コミュニティが基本。パークゴルフ広めた→懇親会
- ・継続を現民生委員が説得。
- ・ボランティアである。
- ・民生委員のイメージ良くなかった→今はちがう。
- ・今は声かけ訪問。
- ・帯広市：9年。歴代町内会長が民生兼務。22名の欠員定員31名。6名はやめる。再任の高齢者多い。80近い人が多くなっている。市では探してしてくれない。市の元助役さんが一生懸命探してくれている。行政に関わっている人が助かる→定員になるかは？
- ・民生委員推薦委→守秘（個人情報）→地域によって対応ちがう
- ・旭川市：町内会長をやっている時に委員をやめられて兼務になった。民生委員広報誌、3年前全戸、民生委員の理解を得るため。
- ・コミセン。年2回市から。
- ・家族葬→隣にいても亡くなったのが分からない状態。
- ・民生委員のなり手の人材に3～4名でとにかく足を運んで説得する。

第9グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

- ・人間性は良いが、担当地区から離れている人がいる場合はどうなのか。
- ・現在選考委員を立ち上げているが、なり手が居ないから誰でも良いということはどうなのか。
- ・引き継ぎの時、民児委員の仕事を話すとこんなにあるならやめたということ有り。自分で選んできた。
- ・自分の後釜を、町内会長に話してあたってもらっている。
- ・班の中にいない場合、越境しても考えてもいいのでは？（なり手不足があるため）
- ・行政の担当者をお願いして、線引きを変えてもらっている所も有り。
- ・定年制を撤廃している所も有り。
- ・辞める人に選考（推薦）委員会が良い人がいないか確認している。
- ・市の退職者あたりがやってくれている所も有るから参考にしたい。
- ・推薦委員会が当たってみるが、なかなか良い返事なし。
- ・推薦委員は町内会長さんがなっている所が多い。民生委員の会長が招集している。
- ・改選終わってから次期の委員になりそうな人にそれなりに探している所も有り。

テーマ5「グループで協議、情報交換したい事項」

○個人情報について情報交換しました。

- ・個人情報の名簿ほども、厳しい市も有り。やや緩やかな地区もあった。
- ・管理は厳密にやっている所は有り。

第10グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

- ・ 退任者が選任をする。
- ・ 地区会長が選任してくれる。
- ・ 1年位前より行政と共に探す
- ・ 1ヶ月程前からアンケートで退任するかどうか。退任者は適任者があるかどうかだけ→行政でまとめて各自治会長を通じて選任する。

○退任理由

- ・ 町内会長より選任されたが会議、行事が多すぎる。
- ・ 在職中のため、動ける時間が無い。
- ・ 民生委員児童委員の活動の大変さで、1期で退任する。
- ・ 若い人は仕事の都合で断られる。
- ・ 商店街が多いため、自由時間が取れないと断られる。
- ・ 高齢になったので若い人に依頼したい。
- ・ 支え合いマップ（多様性を持って活動する事によって情報が入りやすい）
- ・ 「災害にあった場合は、まず自分の身を守る事が大切」

第11グループ

テーマ1 「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

- ・ 自治会長と委員の情報を共有して改選時はスムーズに行っているが、欠員が生じる場合は次回までとなる。
- ・ 伊達市：若い人が委員を受けて下さっている
- ・ 小樽市：市民児協から情報を持っている。
- ・ 道民児協の初任者研修を終えた委員が、4名ほど1期で辞めた方がいました。今回は委員同志が励ました結果再任されている。

○民児協運営について

- ・ 月1回実施している（函館ほか）。NHK（東京）から福祉関係の資料を借りて研修。
- ・ 年4回独自の研修を行っている（警察や障害施設等）。
- ・ 災害時の支援を行っている（炊き出し等）。
- ・ 月1回研修（日帰り、1泊）

テーマ5 「グループで協議、情報交換したい事項」

○小樽、函館の事業について

- ・ 世帯状況調査の依頼があり、全世帯なのでボリューム、聞き取り作業等が難渋し、混乱しています。（個人情報等の問題）この件については他の市からは民生委員が対応すべき事業ではないでしょうとの意見がありました。
- ・ 他の市は65歳以上のお一人暮らし、高齢世帯、要支援者名簿対象者、愛のふれあい等の情報を市、及び、自治会長と連携して行っている。

○その他

- ・ 委員同志のコミュニケーションを大切にするため、3年に1度道外研修を行っている。

第12グループ

テーマ2「民児協運営等を考える」

(1) 新任委員の定着化

- ・定例会時に15分くらい早く来てもらい研修。

(2) 高齢者の状況、エルフィンバトン

- ・改選後に研修。地域別に3部会制で交流、人間関係の構築。
- ・新任を受ける時に説明。定例会と一緒に定例会で親睦を図る。事例発表で新人さんにも理解してもらおう。他社との連携で仕事が多い。
- ・民児協主催でふれあいコンサートでPR。パネル展示等。
- ・新人研修で少しずつ民生委員の仕事を理解してもらおう。プレッシャーをかけない。研修でプレッシャーにならない様に時間をかけて育てる。
- ・事例発表で仕事の内容を理解してもらおう。親睦を図る。

(3) 民児協内で児童委員と主任児童委員が連携を図るための工夫について

- ・学校訪問時などの情報交換を定例で話す。
- ・地区民児協での事業（子育てサロン）等

(4) 定例会の持ち方

- ・平日13:30～
- ・夜 18:30～
- ・朝 10:00～ 農村部なので（冬場）
- ・地域によって異なる。
- ・日時の設定、曜日の設定。

(5) 災害時に備える民児協内部の体制づくりについて。

- ・防災マップの作成で避難訓練
- ・要支援者の名簿で行動

第13グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

- ・北広島市：町内会長かねているよう。新しい人を見つけなければならない。
- ・男65歳まで仕事しているので難しい。市役所に相談はしている。
- ・退任する時は退任民生が見つけてからと言われる。
- ・民生の仕事を知らずに引き受けた。
- ・石狩市：高齢者50名で民生のなり手なし。
- ・室蘭市：若い人がいない。
- ・後押しが大変です。
- ・千歳市：80歳でも後がいなくて辞められない。
- ・早めに会長あてに退任届を出す。
- ・年に1回、5月世帯調査があり、その時に後任の話をしたり、見つけたりするが、仕事を見て大変そうで断られる。
- ・皆との意見—テーマ1は難しい。

テーマ2「民児協運営等を考える」

- ・北広島市：担当地域大小さまざま。市に提出して調べてもらっている。
- ・石狩市：改選の2年前くらいからアクションを起こして改選期を迎えている。
- ・室蘭市：65歳以上は顔を出している。
- ・北広島市：市から用紙を配達してもらい、それを民生さんが受け取りに行くのが楽になった。
- ・高齢者の世帯調査は大変である。

第15グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

- ・各市町村によって欠員人数が異なる。
 - ・江別市：自治会会長の推薦で人選が行われているが、行政の応援が無く、欠員した時には自治会長さんの強力をもらう。
 - ・深川市：欠員数は確認出来ないが少ない。町内会長と選考委員、事務局に協力してもらう。
 - ・北見市：4名欠員。欠員が出た場合、その自治会と民協の連携が必要だということによって形が出来た。
 - ・小樽市：欠員は、数字はあげられないが、地形の関係で欠員が出る。民生委員の高齢化が悩み。欠員がある場合、事務局と一緒に民生委員の確保に動いている。
 - ・帯広市：現状の報告 欠員22名、承諾14名、退任29名、未提出93名、定員329名（次期定数）
これから次期民生委員の欠員は70～80名が想定される。欠員が多かった場合、選考委員会を立ち上げる予定です。
 - ・苫小牧市：欠員なしが目標ですが、現在数字は挙がっていない。現在、各町内会長と一緒に民生委員地区会長と一緒に訪問しながら委員を決めている。市役所の事務局と相談しながら獲得に頑張っています。
- 承諾書を書く時、学歴を書く欄があった。
- 後継者に承諾書をもらう時に説明する時、研修が多かったり、家を空ける事が多いのが悩みだった。

第16グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

- ・町内会長と前任者が相談して決める。
 - ・それでもいない時は 地域包括センターの職員に適任者がいないか情報を提供してもらう。
 - ・地域において民児委員の定数が決まっているが、このテーブルにいる人の中でも、受け持ち人数が90人～250人と差がある。もちろん地域の事情もあるが、地域を統合するなど民児委員の全体の人員数を減らす事も考えてみては。
- 市からの問い合わせで見直している地域もある。

テーマ4 「民児協の研修を考える」

- ・ 夕張市：研修先の地域で、地元民児協の人との交流会を持った大変良かった。
- ・ 定例会で出前講座を開催。
- ・ 道立美術館などの文化施設や福祉施設などを見学し研修し親睦を深める。
- ・ 積み立てなどして、参加費と合わせて楽に開催している。

第17グループ

テーマ1 「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

(1) 一斉改選に向けた適任者確保の方法等

- ・ 自治会組織自体の確保が難しいため、会長が兼務する。→しかし長続きしない。
- ・ 推薦母体は自治体だが、行政の後押しがない。
- ・ 後任者を考えて退任してほしいと言われるところもある。地域によっては欠員が出てしまう。(後任が決まるまで自分が続けなければならない)
- ・ 複数地区を担当したり、他地区にまたがったりしながら続けている。
- ・ 自治会の中に民生委員が入り、一緒に活動しながら退任したい時は話し合って決定する。
- ・ 解決策として、定年延長する必要が出てくる。
- ・ 欠員地区のフォローは周辺(同じ町内の民生委員が行う)
- ・ 原因：仕事の定年がのびた。若い人は参加しにくい。してくれない→環境作り
顔見知りが少なくなった、など。
- ・ 担当外の人に依頼している(緊急対策として)
- ・ 民生委員を市民が知っているのか？(活動内容など)
- ・ やる前とやってからでは違いすぎる→周知方法の工夫が必要。
- ・ 依頼の時に「何も難しくないから」と言わないでほしい(無責任)
- ・ 自治会長が改選の時すら訪問してこない。
- ・ 自治会と民生委員の担当区域が違ってくると更に難しくなる。
- ・ 民生委員が複数担当していると、居住している方の町内会長は親身になるが、居住外の方はどうでもいいという感じになる。
- ・ 推薦してくれる人がいればよいが・・・
- ・ 都会(一人当たり担当数がバラバラ)は多いが、地方は少ない。マンション等有ると自動的に管理組合長になる。
- ・ マンションによっては、民生委員が不要と言う。
- ・ 自治会からも抜けている(管理会社が代行する)→欠員となる→行政の対応しっかりしてほしい。
- ・ 行政出身者が自治会長になる。→しかし民生委員まで至らない。

(2) 担当地域の調整

- ・ 新任さんの場合、居住外地域からの疎外感が有る。
- ・ 行政の事務的区切りにより問題が出てくる。
- ・ 世帯が増えていく過程で行政がしっかり考えて変更しなければ、後々問題が出てくる。

(3) 推薦委員会設置

- ・早めに動く（打診し、継続してもらう）。

第18グループ

テーマ3「関係機関・団体との連携や協働について考える」

- ・千歳市：「きずなポイント」の制度が創設された。
- ・ボランティア登録が必要。登別市、室蘭市で実施（社会福祉協議会）
- ・室蘭市：ボランティア登録、年間500ポイント上限。活動費として利用できる。
- ・苫小牧市：19地区。警察との協働の取組み。広報誌（地区）を作成して、活動内容を周知。
- ・小樽市：世帯調査（200件/1人）を1カ月かけて実施。調査結果を地区民児協に提出→市へ。市よりの情報も提供もある。
- ・室蘭市：世帯調査を実施している。
- ・登別市：町内会、民生委員、包括支援センター、事業者、年2回協議。地域が抱えている課題を協議。小学校区を基準（教師も参加）～社協が取りまとめ。買い物支援、鍵の預かりは福祉施設が対応。訪問→地域により取り組みが異なる。
- ・室蘭市：セコム対応。地域の要望の把握が大切。
- ・夕張市：活動は似たような事を行っているが、活動資金に苦慮している。道民児連よりの補助金を事務局の活動資金としている。民生委員の活動費は1,000円/月だけ受け取っている。→担い手がいない（54名）
- ・登別市：活動資金を得るため、ビールパーティ等を開催している。年末演芸大会～収益を活動費としている。子育てサロンは多い。
- ・苫小牧市：総合福祉課（事務局）となっている。委員は市役所が選任してくれる。（どうしても欠員が生じるような時）
- ・室蘭市：活発な活動の取組みが出来ている。福祉委員（地区社協から任命される）～個人の見守りを実施。2～3人だけ。福祉台帳～連絡先等、マップと合わせて、次の人に引き継ぐ。
- ・登別市：民生委員が個人としてネットワークづくりを依頼している。
- ・苫小牧市：敬老祝い金に合わせて世帯調査を実施している。
- ・小樽市：民生委員に負担がかかっている（世帯調査）
- ・夕張市：主任児童委員～子ども達の情報共有できている（学校）。民生委員～役割分担ができている。
- ・登別市・苫小牧市：民生委員に入学式や参観日の案内がきている。学校の教師と顔つなぎができる
- ・北見市：社協の活動（動き）が鈍いので、共働が進まない。
- ・室蘭市：マップづくりは有効であったため、他地区にもPRした。
- ・北見市：災害時の支援者名簿の取り扱い→情報公開が進まない。個人データの取り扱い（契約書つき）。北見市危機管理課との対応が。
- ・室蘭市：情報の理解だけでいいのではないか。消防団からの情報も有効である。個人情報がないと、福祉はできない。

危機は福祉に関連する情報収集の機会ととらえる。

- ・登別市：民生委員は町内会と関わらないと活動ができない。詳しい情報は町内会から取得できる。
- ・旭川市：地域の福祉事業所と協議を行い、新しい取り組みを検討している。

第19グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

- ・80歳近くになっても継続しなければならない。地域によって定年制（任期途中に75歳になったら）。定年になっても本人の意思があれば実際には継続してもらっていることが多い。
 - ・若い人→現在、仕事をしている人が多い。仕事をしながらだと3年で終わる。
 - ・男性は65歳まで仕事を続けているので、なかなかやり手が少ない。
 - ・年齢が高い地域と比較的低い地域との差。男性のなり手がほしい。
 - ・民生委員はどんな仕事をしているかPRの必要。
 - ・何年か前から民生委員の仕事も変わっているのではないか。
 - ・手を出して、というより、行政とのつなぎ、連絡が中心となっている。
 - ・民生委員をして活動するなかでも、人間関係の難しさがある。
 - ・民生委員、固いイメージ。
 - ・民生委員って何ですか。民生委員の世話にはならない。踏み込めない。
 - ・個人情報のがらみ。
 - ・周りからの情報。
 - ・後任者→自分で頼むのはタブーという地域もある。
 - ・役所との連携を密に。民生委員をやってよかったという雰囲気づくり。
 - ・やはり後任者を探すのは非常に難しい。
 - ・民生委員→家族の協力なしにはできない。
 - ・民生委員は色々な場面に遭遇し、対処しなければならないことが多い。
- 研修やっているか。
- ・1日研修、宿泊研修、交流会的なもの、情報交換の場
 - ・慰安旅行的なもの。
 - ・室蘭市：宮古と（フェリーで）。被災地との交流。

第20グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

今年改正時期のため、このテーマにしました。

- ・苫小牧市：地域に関わる人に依頼をする。
民生委員の仕事について、ガイドラインを説明し、正式には町内会長が依頼する。
- ・釧路市：3名欠員。他の地域から補充（高齢化の為、なり手はない）。
- ・小樽市：やはり担当地域外で民生委員を補充。
町内会役員の中から次の人を見つけて。

- ・江別市：マンションの担当の民生委員がない。
役員の中からなかなか出てこない。他域から選んでどうか？
- ・登別市：町内会の福祉部で育てる。
- ・千歳市：担当地区の民生委員の男性と女性の比率が偏ってきている。
女性が75%を占めている。

○結論

- ・定年まで、辞められない。それでも、次が決まらない。
- ・改選の年に急に動いてもなかなか探せないなので、日頃から、後任者に目星をつけておく必要がある。
- ・やはり、町内会の役員の中から目星をつける。
- ・地域の活動に関心を持っている人が良い。

第21グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

- ・78歳（定年制、75歳。特例として継続可）
- ・担い手不足の状況の中で定年制ありきはどうか。
- ・現役世代でも担う事ことが可—女性が多い傾向。
- ・町内会長頼み。業務の可否。
- ・町内会—行政
- ・改選時を地域にPR—民生委員の活動を知ってもらう。
- ・男性のなり手不足—仕事を持っている影響か。
- ・ボランティア、福祉行政、断れない。民生委員としての適任者。
- ・担当エリアになり手が居ない、枠を越えての委員。
- ・民生委員と町内会との関わり、個人差あり。老人クラブ、情報源。
- ・新人民生委員、活動はするものの定例会に出席しない。途中で辞めてしまう。
原因→委員の対応。
- ・（地区制の見直し）→遅々として進まない。
- ・児童委員との連携は部会の中で話し合い。
- ・定例会での情報開示（高齢者、障がい者、児童）
- ・定例会のあり方
- ・会長からの報告、後
- ・活動事例報告、参考になる。
- ・定例会は副会長が司会
- ・委員が輪番制で

第22グループ

- ・年齢に定年はない。
- ・地域の会合に行き、その中から見つける。食事会等で見つける。
- ・釧路市：75歳定年。
- ・千歳市：75歳定年。

- ・ 80歳、83歳、75歳、民生委員が見つけることが問題です。
- ・ 任期中に見つけている。
- ・ 町内会の関係
- ・ 同級生からの誘い。
- ・ 町内会、自治会で決めてから、本人に話をする。
- ・ 活動記録、会長が集める。
- ・ 会議で委員の悩みを聞く。
- ・ 昼でなく夜の会議。2時間。

○新人に対する

- ・ 同行活動。
- ・ 男・女で歩く。
- ・ 環境づくり。

第23グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

- ・ 苫小牧市：昨年内から町内会と市で協議に動いている。住民人口の動向により、地区の民生委員が人数現を行う予定（15→2名減）。団地の人口減。
- ・ 釧路市：町内会に相談して決めているが、会長が地域把握できていない状況（なり手が少ない）。地域で選任できない場合には市に相談。
- ・ 登別市：3人欠員している。現状は他市と同じ状況。町内の声掛け、議員に相談等を行っている。欠員が埋まらない状況にある。町内会、連合町内会の推薦等を行っている。
- ・ 千歳市：市街地での選任が難しい。部落は顔が分かるので選任しやすい。
- ・ 旭川市：後任のなり手がいない。民生委員の魅力がない。
- ・ 夕張市：行政から依頼文を出している。
- ・ 紋別市：退任予定者に退任理由を書いて、5月末までに報告してもらっている。

○会議への出席状況

- ・ 40歳の民生委員は日中仕事の為、欠席が多い状況。毎月の定例会、見守り報告などが大変なので退任した人もいる。

○一期のみで退任する人はいるか。

- ・ 父親の病気により、退任した人がいる。
- ・ 訪問でいやな事などあり、退任した。

○行政からの情報について

- ・ 北斗市：毎年一度、一人暮らし、高齢者（65歳以上）世帯の現状把握を行っている。
- ・ 旭川市：社協を連携して把握（年に2回会議）。75才以上の一人暮らしの見回り。
- ・ 苫小牧市：年一回、見守り、訪問等を行っている。
- ・ 夕張市：0～5歳、小、中、高、70歳以上、名簿が市からくる。
- ・ 千歳市：市より情報有り。
- ・ 釧路市：生活保護世帯の名簿がくる～毎月訪問している。

- ・紋別市：生活保護の状況報告は市よりくるが、他の情報はない。

第24グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

- ・旭川市：一期3年で辞める人が多い。
- ・紋別市：一期で辞める人は少ない。この違いは？
- ・民生委員の活動（定例会の持ち方も含めて）
- ・民生委員の活動を楽しく、雰囲気よく、気負わない協議会を目指す→出席率も高くなる。
- ・一斉改選に向けてのアンケート、意向調査はしない方がいい。みんな辞めたい気持ちがある。
- ・紋別市：辞めたい気持ちは定例会などで話題に出してもらい、みんなで説得をしてなるべく辞めない様に。
- ・欠員が出た場合、市でもう少し力を入れてほしい。町内会連合会にも市から出向いて、民生委員の後任の選出に説明を含めて協力してもらいたい。（1年位前から取り組まないといけない）

○町内会のあり方

- ・町内会の加入率が50%程度である。
- ・町内会の加入率が高い地域は活動にも力があり、民生委員とタイアップして色々な事業が行える。
- ・定例会に地域包括センター、社会福祉協議会が出席してくれるので色々と勉強になり、何かあった時の相談もスムーズに行える。
- ・紋別市：市からの依頼。町内会の役員と民生委員と組みになり、ネットワーク訪問を行っている（月・2回上旬、下旬）
- ・欠員の人選においては市にあまり頼ってはいけません。市は思う程、動いてはくれません。やはり地域を知っている町内会が人選すべきです。いずれにしても色々な団体等の協力も得たり、情報を共有して探す。
- ・千歳市：自衛隊は協力的。

第25グループ

テーマ2「民児協運営等を考える」

- ・委員なかには一期で辞めたい・・・モチベーション、3年やれるのか？
- ・29名/10名が退任。
- ・27名/1名が退任（会長が代行）定員27名
- ・北斗市：34名/11名が辞める。役所の対応が・・・。
- ・新入りになる人が大変。
- ・定員26/1名欠員。5名が退任。同期（75歳）
- ・町内会に特殊性があるのか？
- ・釧路市：24区、24人、欠員1人—300世帯。町内会が出来にくい。

○新人を育てるために

- ・一人で悩まないでサポートしてあげる。(新入)
- ・定例会等で聞いてサポートしてあげる。(新入)
- ・生活保護について・・・。
- ・会長が一人苦勞している？ 活動量からすべて何人でも独り占め。会計はしっかりしている。
- ・会員から副会長に小言がくる。
- ・新人には会長、事務局が教育する。
- ・定例会に何かあったらという話はするが、新人さんはなかなか言ってくれない。
- ・活動記録について、事務局が確認している。(新人の分も)
- ・活動表だけでは、本当に活動しているかどうかは分からない。
- ・定例会にレジメを作って会を運営している。

第26グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

テーマ2「民児協運営等を考える」

- テーマ1と2のふたつをくりとして話し合う。(8名)
 - ・一斉改選での時期ではあるけれど、この先のなり手不足、又、なって頂いた後のフォロー、関わり方を大切にしたい。
- どう手段を使う・・・人脈を使う。後任を探してから辞める→この方法は大変→見つからなければ続けなければいい。
 - ・町村より、市の方の退任者の後の方が見つからない。
 - ・自治体・行政を頼り、お願いはしているけれど、いかに人を把握しているかいないか。
 - ・ある市町村では・・・改選時期の半年前に確認し、身内でお願い受けて頂く事もあります。行政に頼り、市のOGOBに関わってもらうよう協力願う。他の市町村もあり。
 - ・人を選び、お願いするのは大変な作業ではあるけれど、町内会長しだいで、流れが変わる。宜しく願いしたい。
 - ・民生委員とは・・・ボランティアといえども内容を知らずに受ける為、大変だ！忙しい！と思われたり、言われる前にきちんとした説明が必要と思う。近年、民生委員としての関わりが多く感じます。見直し、手直しの出来るものは、一考をお願いしたい。
 - ・行政の考え方ひとつで民生委員との地域差等が違ってくる。
 - ・地域性で、土、日、夜の会議になってしまう。
 - ・行政は民生委員としての関わり、守り方を知っていないと思う。宜しく願いしたい。
 - ・役所の方々の理解をお願いしたい。

第27グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

- ・本人は世代交代をするようにと、なってほしい人言うのだが、なかなか委員のなり手がいない。
- ・どこの地区でも75歳を定年と考えている。
- ・最高齢、旭川で81歳。
- ・これからは地区別をなくしてとの考えも必要になってくるかもしれない。

テーマ2「民児協運営等を考える」

- 新任委員の定着化について
 - ・3年1期で辞める人が多い。
 - ・引き継ぎの時にあまり良いことは言わず、大変なこともあると伝えるようにする。
- 定例会の持ち方について
 - ・出席者が大変少なくて困っている。夜にすることもあるし、なかなか時間的に難しい（一年分を決めてあるところもある）。

第28グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

- ・夕張市：定数が減る。2名位。
- ・苫小牧市：なり手がいない。一期で辞められる方もいる。
- ・帯広市：5名が辞めたがっているが、3名は続けそうです。
- ・滝川市：体の都合や仕事の都合で辞められる。
- ・名寄市：亡くなる方や仕事の都合で。
- ・恵庭市：5名辞められる。
- ・旭川市：5名中2名は決まっている。
- ・担当の地区での問題を民生委員へ責任が問われたりする。
- ・初めから無理をしない方が長続きすると思う。
- ・周りの住民が民生委員は大変だと考えているので、なり手が出てこない。
- ・定年が伸びてきて、なおさら受け手がいない。
- ・民生委員の講座を設けて受け手を探す。
- ・民生委員同士の交流を通じて、悩み事を解決できるような場を設ける。
- ・地区の役割分担で会長の負担を減らしている。司会、書記を別にまわす。

第29グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

- ・委員の改選については、町内会長の推薦が必要である。
- ・町内会長が挙げてくれるのは候補のひとりである。
- ・欠員の多い所が増ってきている。（なり手がいない）

テーマ2「関係機関・団体との連携や協働について考える」

- 免許証の返納について
 - ・高齢者の所持者が多いが、交通手段としての使用が多い。

- ・家族との話合いが先ず大切である。使用する場合は家族との話合いを優先させる。
- ・免許証の使用・保管については、きっちりとした法の整備も必要である。
- ・帯広市：70歳以上の高齢者は市内に限り、無料でバスを利用させている。
- ・免許証の返納については、本人、家族、警察官、委員との調整が必要。

第4分散会（町村副会長）グループ協議記録概要

司会者 須 貝 亨 氏〔北海道民生委員児童委員連盟理事〕
運営者 菖 蒲 信 也 氏〔北海道民生委員児童委員連盟常務理事・事務局長〕

第1グループ

テーマ3「関係機関・団体との連携や協働について考える」

(1) 高齢者サロンについて

- ・各団体と行っていて、だんだん同じ人が集まり、新しい人が入りづらい。
- ・社協の中に場所があって、民生委員は1回6名位出席し、お手伝いする。
- ・広尾町：デイサービスに行き、歌、踊りのボランティアをする。3～4回。
- ・猿払町：社協主体で高齢者80名位集まり、月1回の割合で行う。
- ・月1回、行政より社協の方で行っている。災害については、防災のパンフは配られているが、まだ実際には使っていない。
- ・社協でやっているのがふれあい郵便を作り、その中にパンフを入れ、安否確認をしている。ふれあい広場、民生委員が出席しカレーライスを作り、高齢者に御馳走する。
- ・みんなの広場があり、文化ホールで第2、第4木曜日、20～30人でやりたい物を持って高齢者が出席し楽しんでいる。
- ・加工場があり、町内会主催で、防災の話などを勉強して、その後、バーベキューなどをして年1回集まり親交を深めている。
- ・年に1度、防災マップを作り、炊き出しなどをして訓練している、社協中心で行っている。
- ・社協では各月で70歳以上の人達で「元気だ会」を行い、講和を聞き昼食を出し、民生委員は3名位手伝いに行きます。
- ・第1期上川町社会福祉総合計画があり、策定の計画にあたり、「小さくても、夢、希望、誇りにみちた上川」を目指し、1人1人が安心して健やかに暮らせる様、取り組んでいます。

第2グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

○委員のなり手不足

- ・新冠町：自治会からの推薦を受けて。
- ・若い時期から民生委員を引き受けてくれる方はいない。
- ・定年過ぎてからの委員になる方も、何年仕事をしてもらえるか不安。
- ・高齢者の訪問も、新しく入った人等は分かりにくい。
- ・陸別町（星）：自分の担当地位時の中で声かけをお願いできる方を目星つけておく。
- ・人口が地域によって違うので、車で行かなければならない地がある。担当個数200戸程度

○活動の苦勞

- ・訪問先でなかなか受け入れてもらえない。
- ・イベント等で顔を覚えて、交通安全の見守り等にも出席。
- ・都市部の民生委員会との交流会に出席してみて、やはり後継者が不足。
- ・人と接する仕事なので適任者を探してほしい。

第3グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

○委員のなり方、次期選任、なり手不足

- ・ボランティアではあるが、報酬を少し上げて欲しい。
- ・地域の期待が多く、次の人に内容を言うと断られる。
- ・退職者の年齢が高いからいない。
- ・若い人が出られる場であれば良い。
- ・民生委員の仕事は難しすぎる。

テーマ2「民児協運営等を考える」

○定例会のあり方

- ・町村の事情があり、時間の取り方は様々。
- ・朝9時からお昼までかかることもある。
- ・部会の時間を取って発表してもらおう。

テーマ5「グループで協議、情報交換したい事項」

- ・主任児童委員は定例会で事例の発表をしてくれる。
- ・学校訪問して給食の試食（民生委員も一緒）
- ・個人情報はどこまで知ってはいけないか。

第4グループ

テーマ2「民児協運営等を考える」

- ・浦幌町：2ヶ月に1回定例会。随時部会。
- ・当麻町：月1回定例会。ケース会議。
- ・由仁町：月1回定例会。毎回、進行係が回り順。
- ・音更町：2ヶ月に1回。
- ・下川町：月1回、部会ごとに発表とか。社協と兼務。他にも兼務が増える。
- ・浦河町：2ヶ月に1回。半年は馬産で欠席多し。
- ・幌延町：2ヶ月に1回～情報交換（保健婦）
- ・東神楽町：月1回（9月は米収穫で休み）。児童部会、福祉部会、広報部会。
民生委員をすると、他の役職もついてくる。炊き出し訓練。
- ・浦河町：老人部会、障害部会、児童部会、親睦部会、非常食の試食。
- ・下川町：敬老会に出て、欠席した人に配りに訪問。
- ・東神楽町：広報を持って配ることで行きやすくなる。地域とのつながりを作ることが大事。
- ・町内会から推薦

- ・辞める時に後任を見つけることはやめる。
- ・役場職員退職者もやっている
- ・報酬の話で終わり。5,000円～9,000円。香典を出すか。

第5グループ

テーマ5「グループで協議、情報交換したい事項」

- ・厚岸町：36名。毎月第1月曜日定例会14：00から。30分～1時間。2時間の時もある。5部会ある。部会ごとに予算付ある。1年回の目標たてる。道内研修、合同の部会で行う。研修席のお礼として予算を使う。今年は長野に20名位、道外研修する。2年間は道内研修、3年目に道外研修する。悩み事はなり手が少ない。74歳まで民生委員の年齢制限ある。報酬と交通費ある。研修費に積み立てる。民生委員は町の外の役職（例えば福祉協議会の役員等）も兼任がある。研修部会、女性部会等5部会。お菓子でなく、トイレットペーパー1箱をお礼として持っていく。
- ・美深町：委員の親睦会費として頂く。
- ・津別町：個人に4月に1回。年3回、自分に入る。道外旅行はない。3,000円積み立て。行かない時は戻す。広報委員会、2年がかりで作る。100年の記念誌。民生委員とOB民生委員に配布。26人。
- ・音更町：主任委員5名。94名民児。99名。定例会99名、偶数月。10部会。30名位研修旅行。3年目に道外。補導委員もついている→児童支援委員に名称が変わる。
- ・美深町：今年は改選で人選が大変です。
- ・浦河町：46名うち3名児童委員。75歳以上の方もいます。福祉、高齢者、障害者、部会と親睦部がある。出席率が悪い。定例会に半分集まれば良い。道内旅行の為に積み立てがある。集まりが悪いのが残念です。
- ・古平町：17名。担当区に1人が任される。道外には行ったことがない。日帰りがある。欠員はない。
- ・町村によって報酬と活動費が違う。

第6グループ

テーマ3「関係機関・団体との連携や協働について考える」

- ・豊浦町：25自治会。8自治会が毎月1回。
- ・中川町：月に1回、サロンを開催。15～18名出席。4時間（10時～2時）自治会予算内。ボランティア。100円タクシーの利用。
- ・津別町：月に1回。5人ずつ手伝い。30名。10時～1時。サロン、カフェの活用。200円の会費。サロン送迎。認知症の方は500円。社協の助成を活用。
- ・上士幌町：民児協ではしない。町の委託によりバスの運営、コミュニティバス。市街週3回、郡部2回。

- ・鷹 栖 町：マルシェの活用。買い物客の足の確保の問題。ふれあい交流会の利用。
- ・厚 岸 町：デマンドバスの活用。ハイヤーの夜間中止。老人クラブ。
- ・比 布 町：老人専用バス。役場、福祉バスの活用。
- ・浦 河 町：70歳以上、バス券温泉券の配布。“元氣ステーション”の作成と活用（町）。100円利用→オレンジカフェ。学生ボランティアの参加。
11時～2時。
- ・豊 浦 町：自治会にサロンの開催を願い、定着させる（社協から要請）
- ・高齢者サロン、子育てサロンについて話し合ったが、民児協による活動よりは地域自治会による運営が多かった。
- ・今回のテーマにより各町村の取り組み、方法等が分かり、色々勉強になりました。社協、自治会の役割の大切さが、私たち民生委員も関わり協力することが、今後の活動の範囲を広げることにつながると思う。
- ・時間の関係で自主防災組織の取り組みまで進めなかった。
- ・自己紹介により開始したが、最後には和気あいあいとなり、昨年もお会いしましたネ！と打ち解けあい、もっと話し合いたかったと思うひと時でした。
- ・他町村の活動を知ることができ、今後の活動に参考になりました。

第7グループ

テーマ5「グループで協議、情報交換したい事項」

- ・福 島 町：生活保護者の施設入所等の情報が担当者になく困る。
- ・栗 山 町：生活保護者の情報は町からは貰える。
- ・新十津川町：色々な情報はこっそりでしか貰えない。
- ・弟 子 屈 町：障害者の情報は個人情報等で貰えない。
- ・厚 真 町：被災の話をして、今後の注意事など盛りあがってしまいました。
いっどこでも起こりうる天災です。それぞれ毎日、災害に備える努力が必要です。

第8グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

- ・清 水 町：定例会6回。農村はまだ良いが他はなり手が無い。
- ・弟 子 屈 町：人探しに大変（半数が辞める）。動きがなかなかとれない。
- ・栗 山 町：人口減。40名定員、月1回定例会。地域に差がある人数。なかなか人がいない。農家の方は1～2回で辞めてしまう。
- ・白 老 町：52名（定数）3名欠員。辞めるのなら人を探して！！（町内会と一緒に）半数位辞めるのでは。大きな博物館が来年できる。
- ・新ひだか町：75歳定年でも、もう1期しようかと。
70名定数で5割5分の出席。なんとか出てこない。年6回定例会。自治会推薦—農業の方、時期的に参加できない。アンケート調査実施。
- ・幌 加 内 町：人口1,477名、高齢者70%以上。事務局で選出してくれる。

定数14名（主任含）

- ・斜里町：夜間定例会、月1回。自治会に選出を願う。基本的には、○例会について、他。
- ・栗山町：総会、事務局対応。他、部会で対応。個人情報問題。
- ・清水町：3部会
- ・幌加内町：例会について個人的な発表を求められる。
- ・白老町：生保等の発表がある。
- ・斜里町：仕事を持つての役員が多くなってきている。

第9グループ

テーマ2「民児協運営等を考える」

(1) 改選後の新任委員に対する研修等について

- ・芽室町：49名中2名欠員。
- ・白老町：57名中3名欠員。
- ・別海町：50名。なかなか、なり手がいません。酪農の仕事が大変なので、又、JAなど自殺する方も多く（病気になりやすい）等、地域の問題となっていて、民生委員のなり手がいない。民生委員どころではない。
- ・浦臼町：お米の町で、10名の民生委員で推薦委員が決めてくれる。今回3名が変わります。町内会長が推薦してくれることもあります。
- ・新任の委員さんの研修等は、管内で行われる参加型、十勝管内は4カ所で回り番で研修をしています。活動記録の取り方を学んだりしています。
- ・1泊2日での研修では、親睦を深めることができます。
- ・他に事務局が毎年変わるので、民生委員が大変です。
- ・若い事務局の方が多いです。仕事ができるようになったら異動しています。
- ・町によっては課長補佐クラスが事務局になっています。

第10グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

(1) テーマを絞って話し合った。

- ・今年改選期ということもあり、7町村それぞれの内情を細かく話し合い、発表できた。
- ・役場の担当課（事務局）が選任する。
- ・委員が町内会長（自治会長）と相談して決め、説得に行く。
- ・辞意を事務局に伝えるだけ。
- ・町内会長に任せる。
- ・辞任する委員が後任を推薦し、選考委員（10名位）で決定し、会長、事務局が説得する。
- ・早めに辞める意志を伝える必要がある。
- ・高齢化社会で委員も高齢化している為、なり手がいない。（若い世代が仕事をし

ているので・・・)

- ・民生委員の活動内容を一般の人は知らない。
- ・普段から町内会長と連携を取り、町内会で活動を一生懸命やっている人を見つけておく。
- ・欠員がない様、スムーズに改選期を終了できる様、努力しなければならない。
- ・白老、比布、美瑛、小平、斜里、小清水、更別（7名）

第11グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

○なり手について

- ・自分で次の人を決めるということではない。町と、自分で決める町とある。
- ・事務局と選考委員会で推薦する町→委員は2人出席するが、情報くらいは聞かせて下さいと言われる。委員が決めるわけではない。
- ・農業だと農繁期と農閑期があってやりやすいかも。
- ・東川町：委員がペアになっていて、困った時には助け合う仕組みがある。それでも困ったら事務局。

テーマ3「関係機関・団体との連携や協働について考える」

○災害時の動き

- ・安平町：社協から任命される福祉協力員さんと一緒に、災害の時訪問に歩いた（活動のしやすさ）。福祉課、社協と協力。見守りの指示が連絡網。避難所に連れて行くのも大変だった。
- ・災害の時には本当に指示系統がしっかりしていないと戸惑う。水がないのが大変。行政も無茶苦茶だった。自衛隊のお風呂の広報が届かない。

テーマ4「民児協の研修を考える」

○研修旅行について

- ・東川町：改選があつたら、全員全国大会に行かせてくれる（町の予算で）。町が、せっかく勉強のためにお金を出してくれるのに、行かないはありえない。活動費は積み立てて3年に1回旅行。

○研修について

- ・積み立てていても、お盆で貰う人が多い。行かない。
- ・社協と共同で行くところもある。
- ・妹背牛町：毎年、自分達で出して、活動費9万使って。
- ・置戸町：2年に1回。今年だけ日帰りで東川町さんへ。
- ・東川町：研修のある月は定例会やらない。
- ・中標津町：2年に1回。3年目は道外、積み立てて足りない分。
- ・妹背牛町：住民さ（以下未記入）
- ・大樹町：1年目十勝、2年目道内、町負担。3年目積み立てて道外。
- ・積み立てて行くところ、町が負担するところ等様々。
- ・積み立てても参加しない人が多くて悩みの町もある。

○まとめ

1. 改選となり手について

- ・次の人は前任者が決める町と、福祉課と選考委員が決めて委員は情報を流すだけのところもある。
- ・活動のしやすさについては、委員同士がペアになって、困った時は2人で動くことに決めている町もある。
- ・研修等の委員へのねぎらいの活動が充実している町もあり、東川町では改選の翌年には全員が全国大会に参加している。これは町の予算で、町が勉強の機会をくれているのだから参加しないはありえないという考えで参加率は高い。また、その他に3年に1回、積み立てた活動費報酬で研修旅行もしている。
- ・そういう良いことは全くないことも、欠員が多い理由のひとつかもしれないという町もあった。

2. 災害時の動きについて

- ・安平町の委員さんから、先の災害時の動きについてうかがえた。震災の日、夜が明けてから連絡網で指示があり、福祉協力員、町職員と手分けして安否確認したが、指示系統がうまく機能していなくて大変だった。避難所に連れて行くのも大変だった、とのことでした。

3. もうひとつ研修について

- ・積み立てても研修に参加しないで、現金で受け取る委員が多いのが悩み。積み立てて研修旅行に行くのが、活動費の本来の目的でないので、積み立てないと負担金を集めるところもあるが参加率は低い。

第12グループ

テーマ3「関係機関・団体との連携や協働について考える」

○高齢者サロン

- ・民生委員としては直接してはいないが、その地区によってはお手伝いをしている。

○その他

- ・妹背牛町：車の免許証の返納についての話が取り上げられている。その後の高齢者の足をどうするか。
- ・災害時マップを作る時に高齢者の問題点は何かを聞き取りをし、人と人のつながりなどについても話し合いをしている。
- ・毎週子供の見守り、高齢者の見守りも。

○災害時要援護台帳の作成について

- ・個人の情報など問題もありましたが、ほとんどの地域で作成しています。
- ・赤ちゃんが誕生した時は、担当の民生委員と主任の児童委員が訪問。
- ・小・中行事以外に春に学校訪問をし、問題点を共有。
- ・民生委員の外に見守りが地域（自治会）の人がいる。
- ・町と社協との助け合いが少ない。民生委員、町、社協との助け合い、また、問題点は共有することが大事。

第14グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

○どのように選ぶか。

- ・自治会による推薦で選ぶのは良いが、民生委員のボランティアの気持ちが育たない様に思う。
- ・民生委員の広報を出す。PRをする（改選前に説明する）。
- ・新しい民生委員に対しての勉強会は（新任研修）
- ・民生委員の活動票記入は少ない方が良いと「先輩」に言われたことがある。
- ・退任する民生委員、替わりになる人を紹介しているところもある。

○定例会の回数

- ・各地の様子によって決める。

夜（開く） 2町

午後 5町

午前 1町

テーマ3「関係機関・団体との連携や協働について考える」

- ・災害時、自分の安全を確認してから活動する。
- ・災害時の民生委員の活動のマニュアルは作っていないところが多い。
- ・支援者の名簿があるがひとりでは見守りできないので、支援者の近所の人達を見守る。あるいは自治会役員と周る。
- ・1人の支援者には、4人程で見守るのが良い。

第16グループ

テーマ3「関係機関・団体との連携や協働について考える」

- ・中富良野町：災害時、独居老人（公営住宅）オール電化の為、大変不便。（ローソクに気をつけてと言葉かけ）火の用心。
- ・日高町：災害ゴミの量、他町村から捨てに来て大変。防災組織、要援護者の把握、台帳作成が大変。

テーマ5「グループで協議、情報交換したい事項」

- ・行政からの情報提出が少なくなり、情報が分からない。
- ・中富良野町：サロンを開いている。3年前から。社協10万、補助金5万。町内会、社協、介護、協力者が多い為運営。
- ・湧別町：民協のOBが手助け（女）
- ・中頓別町：福祉の方で認知症カフェを運営し始め、居場所づくりを民生委員も見守りながら支援している。
- ・中富良野町：研修視察、仙台2泊3日、積立。
- ・定例会：毎月、二か月に1回、年3回と違う。

第17グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

- ・日高町：飛び地合併。日高地区1,500位の人口。7名の委員（2名欠員）。

9/6の地震時も行動早かった。顔見知りが多く、役場の退職者など、既に次期委員確保できている。33歳の人も。

- ・長万部町：自分が退任する時に、次期適任者を推薦。
- ・当別町：現職の委員に意思確認はない。
- ・続けるかどうかの確認書を提出している。
- ・町内会（自治会）に推薦を依頼している。
- ・困った町内会長が自分で委員になるが、定例会に出てこない人がいる。
- ・湧別町：42名。適任者かどうか誰が判断するのか。
- ・会長、副会長の任期は1年。
- ・選考委員が決める。
- ・上富良野町：部会長が議事進行。
- ・前期に若い人が入ってきて、忌憚のない発言もするようになった。
- ・町内会で出てきた人は一期で辞めてしまう。
- ・行政からも地域の人情報が貰えるようになった。10年位前から比べると、活動しやすくなった。新任の福祉担当者には教えてやるくらいになった。
- ・委員を引き継ぐ時には、実際動きながら伝えていくべき。
- ・副会長になっている我々は、少なくとも適任と見られているからだろう。
- ・生活保護家庭とも直接関わらなくなったが、振興局は実態を把握していないのではないか。
- ・役場退職者は福祉に長けているので委員には適任。

第18グループ

テーマ番号 記載なし

- ・枝幸町：人口8,000人。月1回、定例会。その他部会の会議。1人欠員状態で隣の人が見守りをしている。後任は自治会、役場、本人と推薦委員で探している。
- ・中富良野町：委員21名。月1回定例会、毎月2,000円の積立てをしている。東北へ研修旅行に行ってきた。特老の掃除、町内のゴミ拾い、バーベキュー大会（福祉課の人と）「独居老人の見守り人証」を貰い、月1回訪問している。
- ・滝上町：委員21名。定例会2ヶ月に1回。研修旅行、1年おきに1泊旅行。（積立て）
- ・豊頃町：人口3,200名。委員16人。定例会は奇数月。例会を偶数月に集まる。独居老人が200名以上。まごころ通信員の人が見守ってくれている。後任は町内会、福祉課、会長で選考している。3年に1度、1泊旅行。
- ・今金町：人口5,800人、委員23名。3部会があり、月1回例会。主任児童委員が学校訪問に。2年に1回旅行。月1回行事。
- ・日高町：人口12,000人。全体52名の委員。4支部あります。年に1回総会。支部で施設を見て廻っています。3年に1回研修旅行。困難な相談は支部で話し合い。福祉課へ持って行く。

第19グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

- ・どの町村もなり手がなく苦慮。
- ・歌登町：全員14名留任
- ・平取町：25名に9名～10名改選予定（決定していない）。
- ・上富良野町：34名 9名 以前は事務局だったが一町内会長～町内会からの推薦。
- ・滝上町：21名 5名退任→まだ。
- ・豊頃町：16名 2名 前任者が見つかる→自分が推薦するのはおこがましいとの考えも。それが叶わなければ事務局。
- ・今金町：23名 欠員1名 事務局へ名前を挙げたが断られた。→行政に任せようと考えている。
- ・「75歳定年は言ってられない！」
- ・12～11月任期なのはなぜか？

テーマ2「民協運営等を考える」

○定例会の持ち方

- ・形はともあれ、各町村持っている。月1回、他に部会の例会を持っている町も。
- ・委員になって視野が広がり、自分の身にもなる。
- ・歌登町：ケア会議に会長出席。情報が聞ける。
- ・研修年1回。
- ・部会、分科会活動もあり、忙しい。
- ・今金町：高齢部会→民協で。催し物を準備から当日まで担当。
- ・滝上町：社協の手伝い。催し物を準備から当日まで担当。
- ・当て職が多い。

第20グループ

テーマ1「一斉改選に向けて適任者確保を考える」

(1) 適任者確保の方法

- ・自治会長中心
- ・リタイヤ組中心
- ・行政中心
- ・1本釣り
- ・地域に若い人がいなく後任が見つけられない。行政側から強いられて継続せざるを得ない
- ・行政だけでなく自治会を通して確保する方法。
- ・民生委員の男性の立場で声掛けは難しい。

テーマ3「関係機関・団体との連携や協働について考える」

- ・定例会—社協との繋がりを持って情報共有。
- ・見守りネットワーク、社協担当の会議に必ず民生委員が出席して、情報共有して

いる。

- ・ケア会議—行政、民生会長も出席→その後、会長が定例会議で情報共有。

テーマ4「民児協の研修を考える」

- ・色々な工夫をして出席者を多くしようと考えている。
- ・委員会の中で部門別になってそれぞれ研修する。
- ・定例会の中で研修。
- ・町のセミナーに定例会をぶつける。

○定例会

- ・午後から1～2時間。
- ・2ヶ月に1回 1：30～4：00
- ・毎月1回 1時間。

テーマ5「グループで協議、情報交換したい事項」

- ・個人情報について一問題は特にならない。
- ・案件があった場合だけ情報を得るので支障はない。
- ・定例会での情報共有はする。
- ・ボランティア活動に参加することによって情報共有できることがある。